

GHQ/SCAP Records (RG 331, National Archives and Records Service)

Description of contents

(1) Box no. 2969

(2) Folder title/number: (6)
P.T.A.

(3) Date: Dec. 1948 - Feb. 1949

(4) Subject:

Classification	Type of record
9811	s, t

(5) Item description and comment:
Hyogo

(6) Reproduction: Yes No

(7) Film no. Sheet no.

(Compiled by *National Diet Library*)

Hyogo

下.

昭和二十三年十一月廿五日	印刷
昭和二十三年十二月一日	發行
編輯兼	本 田 俊 彦
發行人	鹿島地方事務所内
發行所	鹿島郡連合婦人會
	七尾市富岡町一八
印刷所	波 紅 社

Association *Hyogo*
HUZINKASIMA
島鹿人婦

主要目次

- 所 威 ----- 地方事務所長
- 婦人会長一覧表
- 単位会活動状況
- 町村婦人会から見た連合体の在り方
- 町村婦人会運営に苦心を要する点
- 記念断片 ----- 山 本 久
- 石川縣婦人団体協議会の結成まで

message from Pres.

(A)

會員の皆さんへ

會長 平 林 登 代

眞の世界改造は人心の改善と徳性の涵養に俟たねばなら
 ず。之を婦人の側より言へば、我子の正しき教育に依つての
 みその根底が築かれると思ひます。
 子供は自分の目で見、耳できくどのを手本とし、その手本
 は又子供の人となりを作る上に最も必要なものであります
 から立派な子供を欲しいと思へば立派な人となりとなつね
 ばなりません。それで實際子供の教育の紐を持つ母親達の
 結合は、政治の大綱を握る役人よりとつと大きな努力を
 國民の間に及ぼす者であると思ひます。
 医者が手術をしないので病人を救つたら甚だ危険であ
 ると同じ様に母としての準備をしないで子供を育てるとい
 う事は一つの罪悪だと思ひます。
 私達鹿島郡の婦人は御互手に手を取つてこうした事の初
 強をし力強く生活しようではありませんか。

発行所 鹿島郡連合婦人会
 七尾市富岡町一八
 印刷所 淡 紅 社

(B)



加 中 勝 栄

終戦後さまで期待せず糊ばた式に生れ出た男女同
権！ 自由！ そんなことをおかまいなしに上手
なもので氷ぎ切れない様にとうくと押しよせ
るインフレーションの波、生活苦、嫁と偽む結婚問題、遺
児を抱いて泣く若い未亡人、引揚や失業が動機で
聞へ去る女、封建性だと夫や姑と対立する嫁、目
立って迫えた離婚等々女の世界は目まぐるしい変
遷を極めていく。脚下を照顧すれば育兒、衛生、
炊事、裁縫など家庭一杯にからみついて婦人の社
会的進出どころか一日のゆくりした外出さへさ
えぎっている状態である。而し能力的な面で見ると
よりと体的に見れば一見わかるように男女には
明かに優劣がある。其の方ついている女が男では出
来ない多くの事柄を、割の悪い仕事だと知りなが

ら後へ通って完全に處理し、男として後顧の憂を
なくすることが出来てこそ、そこに女の特長があ
り立派に男と肩をならべ、男女同権だと私は思う。
社会の細胞である家庭がすでに男女で構成されて
いるのに女だけの世界を区別してどのを考えるこ
とは可笑しいことの様ではあるが、婦人には婦人
の立場を闡明にし自己の不遇や辯護に役立たせる
と言う意味でなしに婦人の受持つ分野をよりよく
活かして行くためには婦人会の活動は本當によい
ことだと思ふ。
各家庭の婦人は天れく孤立している。言つてど
邊言てない位引込思案であり社会的連繋の乏しい現
状に於て、実世間活社会の動きにおくれない明る
い空気を家庭へ導入するために婦人会が役立つ

(C)

最後の微笑

べさだと思ふ。
とどあれ最近漸く鹿島郡の婦人会の活動と活潑に
なりかけようとしていることを心から喜びと共に
自主的活動によって健全な地歩を踏みかためてい
くことを期待して筆を擱く。(了)

最後にしなければならぬ微笑を最初に、あるい
は途中ですてしまうことは、知性の欠如を物語る
のだが、戦後の日本にはこうした一番必要なとき
に知性の欠如が目だつ、民主化を絶叫しながら家
庭でのファツシヨに無自覚だつたり、プランとな
く会議を開いたり、下水をほったらかして道路を
修理したり、混雑を防止しないで駅の構内に花を
活けたりすることだ、花を置くことは好ましいが
すべての手段をつくしてから最後の微笑を誤るとい
やるべきことだ、こうした最後の微笑を誤るとい
う知性の欠如が戦前、戦時、戦後を通じてわれわ
れの街を、職場を、生活を、政治、文化などすべ
てを混乱させ、それらを非科学的、非文化的にし
ている人さな原因である。(文化ルーム)

○而し未だ那市に於て連合体が結成されてない
所が多く之が設置結成を促進の爲思ひぬ長期を

顧問 加中勝栄 (地方事務所長)
佐南谷芳野 豊原利子

S.

編輯後記

攻撃、破壊など家庭一杯にのみ閉じて婦人の社会的進出と云ふのは一日のつくりした外出さへさへ之が持っている状態である。而し能力的な面で見るとより身体的に見れば一見わかるように男女には明かに優劣がある。其の方つてゐる女が男では出ない多くの事情を、割の悪い仕事だと知りながら

各家庭の婦人は天れく孤立してゐる。言つて通言でない位引と思案であり社会的連繋の現狀に於て、実世間治社会の動きにおくれないう空気を家庭へ導入するために婦人会が役立つ

やるべきことだ。こうして最後の微笑を誤るといふ知性の欠如が戦前、戦時、戦後を通じてわれわれの街を、職場を、生活を、政治、文化をどうすべを混然させ、それを非科学的、非文化的にしてゐる大きな原因である。(文化ルーム)

○而し未だ那市に於て連合体が結成されてない所が多く之が設置結成を後進の島思ひぬ長期を必要としたが九月一日とどかく結成大会を迎えた。

○席上「那市團として加盟は単位会加盟」に訂正はされたが石川縣婦人団体協議会が正式に結成された。

○而しこゝに問題があつた。単位会加盟と云ふものが實際は金沢市を除き那部は軌を一にした様に那連合体として加盟して来た。

○當然こゝに委員数に依る決定権を認めて紛糾があつたが両者の歩みよりに依り共に連合体として加盟に決定することを得た。

○委員選出に於て尚若干のいささつがあつたが左記の決定を見、事実上の発足したのである。

- 委員長 櫻田みさを (金沢)
- 副委員長 設楽孝子 (七尾)
- 吉田時子 (石川)

鹿島郡連合婦人会 役員氏名

- 会長 平林々代 (笠師保会長)
- 副会長 山本久 (滝尾会長)
- 室木彰子 (熊木会長)

R. 郡連合婦人会の歩み

日	内容	場所	出席者
五月三十一日	縣婦人団体組織準備委員会	金沢市 兼六会館	北出美智子、佐藤谷芳野、中井すい乃、中尾ひさ子
六月一日	冠婚葬祭改善協議会	地方事務所	
六月二日	婦人指導者講習会	白山公民館	
六月三日	婦人指導者講習会	地方事務所	
六月四日	冠婚葬祭改善協議会	地方事務所	
六月五日	七尾鹿島婦人指導者講習会	御成小校	
六月八日	婦人会運営打合せ	地方事務所	
六月十三日	縣婦人団体組織準備委員会	兼六会館	
六月十三日	婦人会議	地方事務所	
六月十六日	縣婦人団体連絡会結成式	公会堂	
六月十六日	婦人会定例理事会	公会堂	
六月十七日	教育委員選定打合せ	兼六会館	
六月二十二日	婦人教育委員立候補対策委員会		
六月二十四日	婦人会理事会	地方事務所	
六月二十七日	青年会合同懇談会		
六月二十七日	婦人会合同懇談会		

S. 編輯後記

○女が正しくある事か、女が深くある事か、女を幸にする唯一の道でありそしてそれが愛する祖国日本を救う道であると思ひます。

○こゝからと婦人鹿島の誕生を見ました。之が皆様の御手元で何か御役に立てばと念願して……

○すべて会のスムーズに発展しないのは相互の連絡通信が欠けていた為ではないでしょうか。連絡する事自体が会の大きな仕事だと思ひます。

○御向いの、御隣りの村が何をやってゐるか分らない様では……勿論通信とは筆に依るもののみを意味するものではありませんが……

○御赴任以来婦人会の爲に色々御指導を御願ひしてゐる地方事務所長さんから玉稿を戴きました。本當に感謝に堪えませぬ。熟読して下さい。

○この会報を通じてとつとつと人々々がしつかりと手をとりたと思ひます。皆さんの村や町の御仕事をしつと御知らせ下さい。郡の皆さんに御知らせしたいと思ひます。

G. - Continued

熊木	笠師保	豊川	鹿島路	中島	鳥屋
九・五・六	九・一・五 八・一・五 四・一・五 一・一・五	九・一・三 八・一・七 八・一・〇 七・一・五 六・一・〇	八・六	九・二・七	九・七・六 七・五 六・〇 四・〇
役員会	婦人講話会 協議会 講話会 講演会	懇談会 家庭講座 村民大会	總會講習会	役員会	幹部会 講演会 講習会 講習会
部落毎 全右	PTAと連合 農事講話会(農業会と合同) 生活改善協議会(青年団と合同)役員のみ (PTAと合同今後と行う) 生活改善事項	料理会 佛光大講演会及座談会 生活改善懇談会(十日迄に部落会を行う) 村会見学 PTAと連合 農事講話会(農業会と合同) 生活改善協議会(青年団と合同)役員のみ (PTAと合同今後と行う) 生活改善事項	鳥屋校視察 参加 十日間	役員会招集 教育委員会委員選挙権防止方打合 順次部落会を開催し一般村民に周知徹底を期す 社会体育会参加	震災援助金村内募集 鹿北六ヶ村幹部会開催 生活改善方法協議決定 村婦人役員会開催 生活改善方法打合部落会を開 催実行方法疎調す
一 六 名	一 五 〇 名	一 四 〇 名	一 〇 名	各部落 八 名	一 一 三 六 三 三 〇 〇 〇 〇 名 名 名 名 名 名
予定					

町村婦人會から見た
連合体のあり方について

1. 單なる協議会などのを以て幹部役員育成に當るばかりでなく單位婦人會その中へと時に進出して直接指導してほしい
2. 対外交渉に今少し婦人團體へ連合会としての重さを認めて載ける様な力を持ってほしい
3. 單位婦人會の求める講師等の斡旋してほしい
4. 他團體との協議会を開きたい
5. 月一回は各責任者が会合して互に実績を報告し合い意見を交換し合い励まし合う様にしてほしい
6. 家庭民主化への強固な協同研究体であつてほしい
7. 縣下の進んだ婦人團體を共同見学しその実態にふれて御互の研究の指針としてほしい
8. 各町村の指導者養成に努力してほしい

町村婦人會運営に當り
最も苦心を要する点

I.

9. 理想と現実に立脚した農村婦人対象の集りであつてほしい
1. 會員の出席の少い点
2. 社会事情が変り易い爲に統一困難
3. 依存的であり消極的である
4. 故のない嫌悪感を持つている人があつて会を理解して貰えない点
5. 自己の属する團體の一員としての自覚が薄く亦忍従と諦めを女性の唯一の美德の如く考ふる風が一般に強く現在の生活を向上しようとする意欲を持たぬ會員多き爲に講習会を催しても出席人員少く張り合ひを感じられない点



L.

縣教育委員選舉鹿島郡婦人關係投票調

町村名	名簿登録人員	當月有権者	投票数	棄権数	投票率%	備考
鹿島	九五六	九三一	三九〇	五三一	四一・〇	
能登部	一三八八	一三一六	九三六	三八〇	七〇・〇	
島屋	一九二〇	一九二〇	一三四六	五七四	七〇・〇	
越路	一四七九	一四一五	九一二	五〇三	六四・〇	
余喜	九九四	九七六	四三九	五三七	四一・〇	
鹿島路	四〇九	四〇九	二七五	一三五	六七・〇	
御祖	九二一	九一〇	四九二	四二〇	四九・九	
久江	九四七	九一五	六四三	二七二	七二・〇	
南大谷	三〇八	三〇七	一八四	一二三	五九・九	
南大谷	七六一	七三六	二五九	四九四	三五・〇	
北大谷	八六四	八三八	三九四	四四四	四七・〇	
崎山	八五九	八三九	二二九	六〇〇	二七・六	
高階	六二〇	五八九	二八六	三〇三	四七・〇	
相馬	七七八	七四九	二七九	四七〇	三三・六	
金ヶ崎	四九九	四三四	一五八	二七六	三六・四	
笠師保	五四四	五二二	二六九	二五二	五〇・〇	
鯉川	七四三	六八六	四〇五	二八一	五八・〇	
鯉川	六四九	六二二	三一九	三〇三	五一・〇	
西岸	六一三	五八〇	三二五	二五五	五六・〇	
中島	七三四	七二三	二九六	四二七	四〇・〇	
西島	五四三	五三〇	二五六	二七四	五二・〇	
金島	六三二	六〇五	三五五	二五〇	五九・〇	
中島	五九五	五九九	四四九	一五〇	七五・〇	
中島	六一五	四七二	三六六	一〇六	七七・〇	
計	一九九〇五	一九二一一	一〇五三六	八六七八	五四・八	

Financial Report

E.

Budget for 1948 of Koshima-ya
Federation of Women's Associations

昭和二十三年度鹿島郡連合婦人会予算

金三万一千圓也 歳入予算高
金三万一千圓也 歳出予算高
歳入出差引残高無し

Class	歳入	歳出	附	備考
1. 事務費	3,000.00	3,000.00		
2. 会議費	5,000.00	5,000.00		
3. 雑費	10,000.00	10,000.00		
4. 印刷費	5,000.00	5,000.00		
5. 雑費	5,000.00	5,000.00		
6. 雑費	3,000.00	3,000.00		
7. 雑費	3,000.00	3,000.00		
合計	31,000.00	31,000.00		

附帯決議
Collective decision
Amount to be paid in the same class?

昭和二十三年十一月四日
November 4, 1948

轉載

女性の自由解放

(鹿島郡林番)

女性の自由解放といふものは随分久しい以前から私共の耳ににざわめいてい

併しそれが何だろうか。思

うに自由といふ、解放といふ意味が甚だしく誤解されていしな

がったろうか。女性を性として唯外界の圧迫や拘束から脱せしめ、所謂高等教育を授け、ひろく一般職業に就かせ、参政権をもたせ、家庭という小天地から、又は親といふ、夫といふ保護者の手から離れて、所謂

鹿島の生活をさせたりと云ふ、それで何で私共女性の自由解放であろうか。成程それと員の自由解放の域に達せしむるに好き境遇と機会を与えるかど知れない。併しそれは到底

か便であるか、手段であるか、目的ではないか。理想ではないか。然らば私共の希う真の自由解放とは何だろうか。

「若く、一体何でしょうか。次号迄に御熟考下さい」



M.

想念断片

くなり乳母と共にいづかたとし
運命のま、の淋しき女であつた。
その一生を通じて自我の独立性が

Finance

Subscribed	31,000.00
Grants	3,000.00
Income	3,000.00
Expenses	3,000.00
Balance	31,000.00
Total	31,000.00

附帯決議
 Collection
 decision

款項目流用できる
 Amount is to be used
 in the same place.

昭和二十三年十一月四日
 昭和三十二年十一月四日

然らば私共の命う真の自由解放とは何だろうか
 「皆さく、一体何でしようか、次号迄に御執考下さい」

M.

想念断片

副会長 山本 久

小説界の底流に観念的のものが強く流れているというのがその事が因由した訳ではないが最近急に芥川氏のものが読みたくなり頻りと暇を偷む中遂に一篇のテーマが心をとらえ離れぬ事となったそれは「六ノ宮の姫君」と題する中篇なのである。

六ノ宮に住んでいた平安朝期の或る姫君の一生をざつと描いたものである。極めて幸福に育った一人の姫君が稍長じて不意に両親を相ついで失い、忠実なる乳母と漸く襲い来る生活苦に打挫かれようとする。乳母は何等の生活力を持たない處から姫に夫をめぐらせる。その夫はこよなく愛してくれたが姫自身は何等の幸福感をも持ち得ずに唯身を任せているにすぎなかった。やがてその夫と別れ別れた夫を迎えろが六ノ宮にと住み得な

くなり乳母と共にいづかたとしていれずになる。

それから数年猶恋々として姫のこころを忘れ得ぬ先の夫は思いがけず今は乞食に身をやつす姫にめぐり会う。姫は驚きと恥との為には息が絶えようとする。そこへ作者は内記の上人を点出し来つて臨終の導師たらしめる。然し姫は何等の併果を得ず「冷い風が吹くばかり」と答えて先づ死に思ひかけたまゝ、死んでゆくのである。

之が概略であるが最後に内記の上人の姫の魂に云い放つて「生れて真の喜びもしらず悲しみを知り得なかつた腑甲斐ない女の魂」という一語が私の心に突きささ、つて未だに忘れ得ぬのである。更に味うてつぎめ言葉である。

私はひそかに「六ノ宮の姫君」の生涯をフランスの傑作モウパッサンの「女の一生」の女主人公に比するものである。

共に箱入振式に育てられかたすら

運命のまゝの淋しき女であつた。その一生を通じて自我の独立性が見られなく自覚のどて得なかつた女性であつた。自我の独立と解放これこそ人間にとつての重要事である。

終戦前迄女性のみならず男性にとこの姫君型が多かつたのではなからうか。終戦と同時に人権の尊重が叫ばれ存べて我々女性には急に全ゆる権利が與えられ今や自己内面の解放に自らの鋭い努力を向けねばならなくなつた。利戦の多い都市に住む女性達に比する時農山漁村の婦人達は余りにこの「六ノ宮の姫君」の魂を己が心の中に住ませて氣づかないのではなからうか。

一般に農山漁村の婦人は素直であり醇朴である。しかしそれはそういう方が好いという唯一片の浅い巧利的観念から来る諦念。横言すれば自分の都合より来る忍従心にはすぎないものであると思う。

日々の労働に疲れ家庭の世話にや
つれ果て、時折の寺詣りが唯一の
慰樂で一生を終るこの生活の仕方
がそこらに無数にあると思う。
我々婦人は今こそこの労働苦の中
に勿論軽減すべき万般の工夫を凝
らして更に自己の魂をより高くよ
り深く磨く心のち方により生活
に負けぬ自分自らの慰樂の世界を
打出してゆくべきのと考えるの
である。この慰樂は自覚せる魂の
上にこそ来るのであって眞の人生
の喜びを味い悲しみを哀しむ所以
である。

の自覚の問題に連がり向上の念の
つよさにとをとおくものと思う。
すつかり新しくなつた世界を我々
は正しい眼を以て十分に識別して
ゆく必要があり生活法に於てとよ
り科学的に合理的に工夫してゆく
要がいや程ある。それには狭い自
分の世界を交換してゆく事が大切
で結合の力こそ事を動かしてゆく
のである。

我々は如上の意味から婦人会とい
うものを毛嫌にする事なく能く理
解して自分が好き婦人会への個々
となり又婦人会に依つてたやすく
自分を磨き上げてゆきたいもので
ある。

N. 石川縣婦人団体協議会には
—— 奮分不参加 ——
石川縣婦人の總力を結果し民主的平和的日本の
建設に奔走しようとする婦人団体を選定した協
議会と新余曲折の後漸く誕生致しました。が
鹿島郡連婦としては十一月四日の理事會で令
暫く様子を見た(勉強した)上で加入しては
という事に決定しました。

O. 明るい生活築くには

石川縣婦人団体協議會

- 封建的な悪習慣を打破し明るい健全な社会生活を
打ち立て様と石川縣婦人団体協議會では婦人の日
の十日午前金沢市公会堂で「生活改善婦人大会」
をひらき左の如く決議した
- 一 今こそ婦人は全縣的に結婚改善運動を起しま
しよう
- 一 まず台所改善によつて主婦の勞力を軽減いた
しましょう
- 一 家庭の電力増配をその筋に運動しましょう
- 一 物價引下げ運動を展開致しましょう
- 一 石川縣民の歌を普及し朗らかに衆しく婦人文
化運動を推進致しましょう

P. 石川縣婦人団体協議會
の結成される迄

○昨年の夏縣下既成婦人団体長に依り連絡協議會
が結ばれたが婦人会自体の組織力の無力の端逆
に立派の状態になつた。
○今年四月偶々北國婦人議会の折改めて右の事が
問題となり郡市團として加盟するの一項を大き
く掲げて協議會の設置が決議された。

D.
name of
org.
res. name
address
鹿島郡連合婦人會長氏名一覽表
List of Presidents of United Women's Associations
of Kashima - Gun,

焼け荒れた校舎もかくも美しく新築成り設備も種々とのい、又優秀な活先生の御指導により又会員の努力によりまして、とくに本年度に入りましてよりますます、会も発展充実され名実共に完備いたしました。又向こは編集部が創設されました事は皆様と共に御同慶に堪えない所であります。今后共当部の発展を期してやまないものであります。

理事会合の報告



- 第一回御影小学校校友会總會
昭二四・四・二七 於講堂
議事
一 御影小学校後援会を暫時的に解散して新しく御影小学校校友会を結成する件
二 育友会々々則審議の件
三 会長、副会長選挙の件
四 昭和二四年度予算四月分支出に關し瞭解を求める件
○第一回学年委員会
昭二四・五・二 於會議室
議事
一 会長、副会長の性格、機能等について討議する。
二 緊急動議
三 理事選出の件
四 監事選出の件
五 理事の決定は会長に一任する件
○第一回理事会
昭二四・五・二 於會議室に引続き
- 一 副会長一名補充に關する件
二 大江清衛氏を育友会相談役に推挙する件
三 顧問委員に關する件
四 昭和二四年度予算案審議に關する件
五 その他
○育友会臨時總會
昭二四・五・四 於講堂
議事
一 育友会副会長補充の件
二 理事決定報告承認の件
三 監事決定報告承認の件
四 相談顧問の決定報告承認の件
五 昭和二四年度予算案審議の件
六 緊急動議の件
七 会長より緊急動議——不満職を受け換設置の件
○第二回理事会
昭二四・五・四 總會に引続き
一 理事会に監事の出席を求める件
- 二 相談役決定報告承認の件
三 昭和二四年度支出の方途に關する件
四 各部の部長次長決定報告承認を求める件
五 親と子の運動會に關する申し合せの件
○学級委員会(親子運動會反省會)
昭二四・五・二 於講堂
議事
一 親子運動會反省會
○理事部長會
昭二四・六・八 於會議室
議事
一 カリキユラムの件
二 各部年度計画に就て
三 その他
○理事部長會議
昭二四・六・二 於會議室
議事
一 各部長選任発表
二 各部の計画発表
○育友会臨時總會
昭二四・七・九 於講堂
議事
一 各部年度計画発表
二 カリキユラム実施の件
三 中庭整備補助金の件
○理事会
昭二四・八・二 於會議室
- 一 第一期會計報告
二 カリキユラム状況報告
三 其の他
○理事会
昭二四・九・二 於會議室
議事
一 會報(仮称)発行に關する経過報告
二 中庭整地、整理、懇話報告
三 第一期會計報告次書
四 会則審議委員会設定の可否
○理事会
昭二四・九・二 於會議室
議事
一 小学校秋季運動會に關する件
○理事会
昭二四・一〇・二 於會議室
議事
一 修学旅行費(六年)補助に關する件
二 運動會に關する決算報告
三 育友会誌発刊に關する件
四 其の他

育友会誌名「育友」は多数応募名の中から理事会に於て最良の結果決定を見なもので当選者は當校事務職員水谷百世子様であります。

学校衛生教育に就て

和田 秀 雄

学校保健教育を効果的に且つ持続的に実施するには必要なる六つの基本的事業がある。

- 一 学校環境衛生改善 尤もな環境をもつて且つ費用も極めて大となるものである。運動場の緑化、建物の保健的管理、便所、水道施設の完備、教室の通風、日光の問題、机と椅子の関係(姿勢の改善)、給食室、水呑場、手洗場の整備。
- 二 医学的指導 医学的「サーベイ」より更に進んで「指導」に近するべきもので、従来の校医の仕事は既に定期的検診を為して後の仕方が為されておられ、校医は年一、二回お座りりの身体検査を為すのでは全く不十分で理想的には専ら校医が毎日学校において保健指導に當るべきである。校医及看護婦、養護教員の仕事は医学「サーベイ」及医学指導に當る全般的計画立案に當るべきものである。日々の児童の健康状態を尤もよく知り又発見し易いのは受持教師である。尤の受持教師による観察により早期に病状の子供を発見する。又医学的指導の根幹を為すものは統計的基礎に基くべきことには先づ個人表の作製を為し之の個人表にはその子供の身体上の事口細て細大もろさず網羅すべきで食物の嗜好から細い検査の結果追記しておくべきである。学校の衛生室は統計圖表で満されたり又絶えず新しい統計結果を掲ぐべきであらう。
- 三 感染症の出来る様人及び設備を準備する。衛生室の完備、感染症薬品の整備、事故が突発した時に直ちに対応出来る様な訓練も必要である。教師も生徒自身も感染症の予防に対する知識を具へるべきであらう。
- 四 健康、保健に対する正確な知識を持つ様に教育する。児童は健康に對し多く多く知るべきであるが之は学校の責任である。例へば自分自身に對し善き健康を維持するといふ事は如何なることか、又病氣や事故を避けるべき方法、又適當な食餌と不適當な食餌との區別、薬品の効果、種痘及び予防接種の価値等まで多くの知識を與へらるべきであらう。不幸にして子供はラヂオや新聞紙面により間違つた知識を與へ

られとあり、迷信や傳説物語により間違つて考へておるが之を是正するのが学校の責任である。日々のカリキュラムの中に衛生問題を實際に採上げられるべきで、全課程の半分は當然保健衛生問題であつて然るべきと思ふ。

五 完全なる衛生指導 健康の樹立 単に健康とは如何なることかといふ事だけではないに完全なる内面的衛生的習慣を確立する事がある。之は医学的指導、精神衛生上の指導を有してあるだけではないに之を習慣的に使用するに於て、学校衛生に關しては清潔、適量なる食餌、適量の運動と休養、娛樂等が大切である。又必要時には医学的忠告を與入れる習慣、保健教育に關する習識の實踐等總て事に学校内のみならず日々の家庭生活へ移入する事により一層効果的となる。

六 進歩的、又は不良児に對しては特別の教育を必要とする。低能児、進歩的、愚鈍のある児童、體力、視力の弱し子供等に對しては特別の進歩的、又は不良児に對しては特別の教育を必要とする。低能児、進歩的、愚鈍のある児童、體力、視力の弱し子供等に對しては特別の進歩的、又は不良児に對しては特別の教育を必要とする。

七 之等の学校が直轄して居る保健教育の責任は先づ第一に之を整理する指導者、校長、校医等に於てある。政策計画の樹立は都市の教育委員会にあり、之を實際に実行に移すのは校長である。校長が校医、看護教員、一般教員其他の技術的指導者を使つて保健教育を遂行すべきである。

八 単に学校のみならず就学前の教育、卒業後の教育、家庭における又社会における保健教育の進展すべきもので成人教育も学校を中心とするべきである。

- 1 健康といふ事の意味の認識及び之と健康教育との關係。
- 2 学校衛生に關しての学校の責任と為すべき機会をとりしめる事、常に

学校衛生計画の立案、組織の在り方に就て

はなかつたのであります。ところが御父兄には進分この「新教育」に對して意欲の念を掲いでいる向きもあるやに聞き及びます。曰く基礎學習がおろそかになる、曰く実力が養成されな、曰く入學試験にさしつかえる、等々、いかに新教育とはいふ、基礎學習即ち読み、書き、教える等とを更外視して成り立つものでありませぬ。又、実力とは読んで字の如く實際に役立つものでありまして、これこそ新教育のモットーであり、従来の教育は觀念の遊戯に過ぎなかつたのであります。最後に入學試験云々は今日の教育的常識を以てしては誠に意外存のであります。六五制のもと各市町村は莫大なる費用を投じて新制中學校の建設に當つて居

衛生と教育に連絡せしむる概

- 3 学校衛生教育の目的と之の目的に近づくべき学校の責任。
- 4 之の責任を認識して実行に移す様に学校側が負入れる様にする。
- 5 学校衛生教育計画が如何に広範面の要素から成立つてあるかを理解し、且つ之の總ての要素の目的及び仕事を理解する事。
- 6 学校行政又は学校行政組織の中に衛生教育を適當に編入する事。
- 7 各種の要素の適當な聯繫及び之により各要素の全機能を發揮せしめ又完全な計画の効果を果す様にする。
- 8 充分に熟練し且つ各人共必要なる資格を具備しておるか否かを充分

一件何をしているんぞと非難攻撃の矢面に立つことになるかも知れません。先生としましては以前の語法教育の方がどんなに効果的であろうか。教師用書に元来れば学校出たての先生もあやうくせず教壇に立てたのです。然し新教育となるにせよは簡単に参りません。何しろ雲をつかむようなもので、まぢまぢの教科書さえほんの参考程度と未だして居るんです。何から何まで創造して行かねばならぬのです。筆者の如き愚鈍のもの等、早く退めて良かつたと思つて居るに過ぎません。それなのにその待遇と未だ全くお話になりません。その上PTAから遠慮なくピシンの待遇と未だ全くお話になりません。要は我々PTA会員がピシヤラれたらそれこそ立つ瀬もないでしょう。要は我々PTA会員が前述のような入学準備云々といつたつまみめ学校教育面への不当干渉を排除して新教育の推進に全面的に協力して行くこととあります。元は何も校長のためでなく又先生のためでもなく、可愛い、自らの子たちへの為の外ありません。

一方、先生方に対しましては新教育が計画的且継続性をその場限りの自由奔放な教育に陥らぬよう、生きている子供達、伸びんとする子供達のため、老要心に東心お願ひする次第であります。

はPTA会員の心の結集から 井 置 武 雄

日本は敗戦によつて民主主義革命を義務づけられました。政治も社会も文化も教育もあらゆるものが民主主義の名によつて改革されなければなりません。

果しこの四年間にこれだけが日本の民主革命に相応しい進歩と発展を上げたかと言われれば一言にい、つくせないほど澤山な方面に差歩と背展を上げたと言われれば、然し日本人の新しい文化圏家建設の基盤となる精神的方面の進歩と発展はと聞かされると、これが果してアラスと取り得るものが見出されるかどうかはたやすく答えられませんが、これは即ち進歩を見たと言つのは多く法律的制度的な原則論的なものに過ぎずして外面の体裁を整えられたことは確かであるが、これを実行に移して行くための精神的な方面ではまだ及ばざること懸しの感が多分にあると思ひます。民主主義によつて個人の尊厳と自由の確立

をあらゆる方面で肯定されました。それは新憲法の第三章に基本的な人権擁護と国民の生活権確立のための二十一ヶ條にわたる規定を設け自由の基礎にたつ民主主義憲法に明らかであります。然しこれが同時に自主的な責任を前提としなければならぬところに日本人の自覚が足りないと思はれます。自覚が足りないと言ふよりもむしろ権利を主張することに急であつて、義務を履行することを考へない、いな義務を棚上げにする傾きを見せて居るようでありませぬ。民主主義が健全なものとして発展するには各人は必ずしも権利と義務を自覚すべきであると思ふ。

権利とは義務を行う権利であり、義務を行う義務であらねばならぬと思ふ。PTAに於ても父母は親として平等である以上権利義務も平等である。現在の御影校のPTAは日本文化の再建のために民主的なる大改変をなしてつづつある学校教育の援助のために外面的に形を整つた程度であります。これらが本當の活動を開始し、会員の組織に訴へて子供たちのためによりよき学校とし、よりよき子供達をつくらねばならぬ大きな使命が皆様にかけられて居るのであります。PTAの外形も会員の皆様から御座ると、まだく不充分的な点も多し事とせう。元は是正し、更に内面的な充実を皆様の心の結集によつて着々実行に移すべきであります。子供の自由のびくとした本来の姿が見守れるように。

「生きた教育」を望む

新しい教育が実施せられるまでの学校は児童はたゞ受身になつて、先生から言はれることをたまつて聞いて、先生の命令に従順である者がよいと考えられていた。そして勉強といふはたゞ智識的に優れている者を目指して来たのであつて、それはあまりにも智識だけを重く考へ過ぎて来たのである。このような古い考へ方の学校から、児童自らが研究し、創作し、調査し、表現するといふように「為すこと」によつて学ぶといふ学校に変わり、個性の発達と自ら興味をもつて積極的に学習することを新しき学校では児童個々の必要を重視すると共に興味を中心とした自主的な学習を強調して社会的協同精神を養成して、創造的な自己

育友

昭和二十五年十一月十五日発行
編集人 井上 昇
発行所 御影小学校育友会
印刷所 阪神フリンター社
電話七九五

創刊の辞

育友会々長 西 島 承 三 郎

御影町立小学校育友会創設以来会員各位の適切な御理解と並々なり必御盡力と共に本校内外関係各諸彦の絶大なる御援助によりまして飛躍的進歩を遂げつゝ、あります事は洵に御同慶に堪えざる處でありまして此機会に厚く御禮申上る次第であります。今度会員各位の要望により従来育友会の活動分野——即ち体育、衛生、事業、修養、学芸、総務及購買——の他に新たに編輯部を新設し毎月育友会の会報を発行することとなりました。

さて此会報の使命は小学校當局の教育方針と其実体に即応して側面的に存在する育友会の一機関であつて吾々会員のものであり吾々の子供の為のものであります。会員各位は此主旨に御賛同下さいまして更に御協力を賜り郷土文教の一助ともなはば望外の喜であります。切に江湖の御指導を希ひ荒刊の御挨拶と致します。

御 祝 辞

御影小学校長 井 上 昇

希望と期待のつぼの中に、我が育友会誌「育友」は生まれました。平会のためにこんな嬉しいことはありません。願わくば常に明るく堅実で本会のよりよき発展のための偉大なる推進力で終始致しますように。希望の一端を述べて荒刊のお祝いと致します。

祝 辞

兵庫県 民間教育課
マーシヨリ オマーリ

月刊新聞を発行する事によつて、PTAへのよりよき理解を深めようとして居られる御影小学校PTA会員の皆様へ敬意を表します。このような層の元に発行される新聞は思慮深く又興味深く書かれさへするならば必ず会員の間でPTA活動に対する関心と興味とを引起して、その活動に参加させるようにする事は確かでありませう。

次に御紙の読者に対して私が強調したいと思ふ五要点を簡単に記して見ませう。

1. PTAの会員になる、ならぬは各自の自由意志に従う事。
2. 会費は子供達の福祉と教育の増進のために用いる事。
3. 役員は選挙は形に於ても精神に於ても民主的に行う事。
4. PTAの活動は各面にわたつてよく調和の取れたものであり学校と同様家庭をもよりよくするために貢献す可きものである事。
5. 両親、教師、校長は等しくPTAの会費であり、三者の間に優劣はない事。

以上の原理は残念ながら、日本の多くのPTAに於ては未だ理解されて居りません。然しながら熱心な努力と、慎重な研究を怠らなければやがては会員にとつて、民主的であり、有益にして愉快なPTAが出来上る事を私は確信致します。御影小学校PTAがさうゆうPTAへと発展されます事を心から期待して居ります。

御 挨拶

相談役 大 江 清 衛

今般御影小学校育友会に皆様の結果によりまして目出度く編集部が創設されました事は会の発展並に会員の緊密の上にもことに喜ばしい事と存じます。さてふりかえり見まするに微力なる小生を前会長とおされまして厚顔にも引受けました。皆様の御支援により無事職責を果たした事はこれ先生方始め皆様の絶大なる御盡力のたまものと厚く感謝する次第であります。(三島(ハツク))

五	五	五	五
23	23	23	23
24	24	24	24
47	47	47	47
高野富子	阪口大	南 孝子	大和みつ
兵庫長久郎	大阪西成川出東島	兵庫加古平岡村	新堀川那那流

栗原信二	兵庫武庫	栗原信二	兵庫武庫
栗原信二	兵庫武庫	栗原信二	兵庫武庫

総務部	大槻 徳儀	衛生部	和田 小静
学芸部	小谷 勲一	修養部	鏡田 いち
体育部	荒木 友治	購買部	村瀬 久仁三
事務部	石井 健之助	編集部	井田 武嘉

教育の方向へ進ませる事である。これからの教育は習識を興へるだけでなく子供にどのような経験を積ませたらよいかという事を研究すべきである。それについて最も大切なことは子供は非常に感受性に富むことであるから如何にすればこれを善導出来るかと言ふことをまず考へるべきであらう。凡そ人間の心理として「真実」といふものほど強い感銘を覚えるものはないのであるから、教育者は子供を教育する上は真実の力の偉大なる事を常に銘記すべきであらう。



偶感

御影小学校教育 興 幸 俊

私は貧民街に生れその仲間として貧民の生活を同じく経験してきた。しかもお形式的な儀礼的な安逸をもちあつて居るいわゆる「高尚な生活」をしようとする氣持がうらみきれない。虚偽をまもろうとする自分には世の中のすべてが安樂に見え、結構な肖極的な論議におち入りがちである。

友 育

一回空の佛教的諦観とはおよそ縁の遠いものであることは自分でわかる様な気がするのだがそれは思ひ想う上だけのことで、尊徳先生のいわゆる実践的の面からいえば私の今考へることは弱きあり目に見えぬ災であるような気がしてならない。

思想と実践とを切りはなして學術体系をたてようとした現代西洋科學のうつろな脆弱をのぞきたい氣がする。私の中でひたつたきたものだが、又このようなのろい、うらみ、それ自体が意味のないこととは感づかぬが――

「胸は降られどカシカシ」という歌は單なる俗歌であり、この歌の作詞作曲がそれだけの専門家の注意點の結果か、酸眼もろうろの時のヒラキが、それほどよくかきといて一種の眞實性があると思ふ。

資本主義も共産主義も何々主義も考へれば己の思想上の或は利益上の立場をまもろうとする考へに他ならぬと思ふ。アインシュタインの相對性原理をもち出して云々するにはあまりに低級な問題ではなからうかとどこかに思ふ。「汝の世界がちがうように思われる。即ち自然に喰い

入り方が全然問題にならぬからだと思ふ。我々にとつて教育は、經濟を文學だ、美術だといふものは低い且停止した「次」にとどまらうとするものであると考へる識者があつたとすればそれこそ自然にとつてゆるしがない罪惡であらうと思ふ。常に向上しようとする人類や人間の心が自然の意にかなつたものであり、及村に自然を消滅しようとする人類や人間も自然の中のものであることを忘れることが出来ない。融通無碍の境地に入つた人間の心が人間を指導することが出来ると思ふ。私には少くともその方向に努力しつゝ、ある者のみが教師である様に考へられる。カリキュラムの技術も眞摯な研究と、とらわれぬ態度のみが向上させるものだと思ふ。形式的な意味のないなみもこの意味において意義があると思ふ。PTAの運営もこの意味においてのみ成り立つて居るものがあると思ふ。小我にこりかたまつた人間がグループの中心になる時に一時の花をかざせても永遠の眞理に合致しない苦痛のいとなきにすぎないことは言うまでもないこと、思ふ。

會員及び児童の皆様へ

- 左記の事項を青反会編集部までお答え下さるようお願い致します。
- 尚採用の方々は紙上掲載費品を差上げます。
- 十一月十五日 P T A 編集部
- 一 會員の皆様へ
 - 1 會員として学校当局に何を望むか
 - 2 會員として青反会に何を望むか
 - 二 児童の皆様へ
 - 1 児童として青反会にどうしてほしいか
 - 2 児童として学校にどうしてほしいか
- 以上
- 果敢×切は十一月末日まで
原稿は果敢×切紙で御影郵便局私書箱第二号へ
原稿の戻りは自由です。
本名をかくして発表になることも自由です。但し本報の名前の
ない方は實名入りませぬ。
① 会報の御投稿は御影郵便局私書箱第二号又は校内投函箱へ
② 最も民主的に運営されたいと思つて居るPTAのあり方に
ついて會員の皆様からとくく御投稿が望まれますが建設的な御意見は原
稿にして毎月末日迄に編集部までお知らせ下さいませよう御願ひします。

感ずるもの

美影生

理事会は活発で、番茶をす、りながら、甲論乙駁いつ果つることも知れず、時に空腹をかゝて、更け及ぶことすらある。論議は平凡であらゆる角度から鋭利に取っ組みすは誠にほゝえましい。発言の一つ一つに会員の意見が如実に反映されていると思えば喜ばしい限りだ。

○ 学級委員の義務又重し。選挙は実に慎重にやらねばならぬ。たが育友会の役員位と軽々しく考へてはいけない。

○ 元来日本人は更をともしなわぬ外面的な機構改革が好きで国民らしい官僚好みの複雑な機構をでっちあげ、あげくの果てがその機構のため、にっちもさっちも行かぬ羽目に陥ることが多い。予算面から見てもたがが知れた育友会の事業ぐらゐの会則に忠実に理事で簡單に運営して行けるものを、たゞし理事という名称は一考を要する。長たる難しいかな。発言にも慎重

を要する。その点陣笠は氣象だ、とはいへ、何をしゃべつてもいいというのではない。自己の発言に對してはあくまで責任を持たねばならぬことは勿論だ。私はあなたの見解には反対である。然しあなたにはそれを述べる権利がある。言論の自由をたゝえこの民主的表現をよく頑味せねばならない。

○ 親達が禁けられ古くさい封建的な躰を現在の子弟にあしつけてもよいものだろうか。教育内容そのものでさ九百八十度の転回を遂げている現在なのだ。武士道に端を発した封建的な躰を改め、限り、將來自由にして平和な民主日本建設を担う国民は養成されたい。一例をあげて見よう。武士は喰わねど高揚子……子供に金を喰へて物を買わせてはいけない。親がちゃんと言つて買つてやるべきだ。ごあます御様の御主張はこうだ。先子供というものは自分で金をにぎつて自分で物を買つて見たい慾望に駆り出されるものだ。所持金の範囲内を物を選別し、これならばと思つたものを買つておつりを勘定して意氣揚々と引きあげる。この過程こそ新教育のねらう身につい

た勉強ではなからうか。親から喫えられたもの以上にその物への愛着が湧き大切にすることにもなると思う。またお金の勘定も満足に出来ない幼児に金を持たせて物を買わせて遠くで様子を見ていらつしやる躰をこそほめたゝえなくする。だが然し無駄使いさせることは自ら別問題である。

○ 先生が酒を飲んでいたとびつくり

したようにいった一母親があつた。先生は雲の彼方の仙人とでも考へていらつしやるのか。天皇をこゝろにましまさぬことをまだお知りにならないらしい。失礼乍ら「待遇」の上では最下位にある先生たち、世の非難を浴びる程飲みたくても飲まれない現状ではなからうか。誠に以てお氣の毒なことだ。

會誌の発行について

育友会に編集部が出来ると言うことになつて、会員の皆様、原稿をお願いしてから一月余りになり早やく発行しようと思つておりましたが自分の職務上の支障や学校当局の都合で今日まで延び／＼になつてしまいました事を深くお詫び申し上げます。この会報が眞に新しい学校教育の目的を達成するために少しでもお役に立てば幸に存じます。お互に皆様のPTAであり、皆様の機関紙であります。オマレ！オマレ！お詫びを下さいました。その中にも私達会員が大いに学ばなければならぬ貴重な御意見を拜見して居るのであります。特にオマレ！オマレ！PTAの活動は各都府にわたつてよく調和のとれたものであり、学校と同様家庭をもよくするために貢献すべきであらねばならぬとおつしやいます。私達会員が眞に学校のため、子供のために活動出来るためには、私達の家庭をよくせねばなりません。私共出来ることなればより一層押進めて会員の皆様の御家庭のあらゆる問題が解決出来るようになりたいと考へて居ります。皆様存に御心配なり御相談のお相手をこの機関紙におさせ下さいませうお願い致します。そして質問は當書あるいは手紙にして御郵郵便局私書函第三号へ御手紙下さい。 編集部

Kakogawa Plan

(Vol 1)

February 1949

Kakogawa Town Public Primary School

Kako-gun

Hyogo Prefecture

BA	41	7.5 V	2
BA	40	9.0 V	1
Total			16

At the same time, I comply faithfully with the given directions and make the most of the gift for Educational purpose and assume full responsibility for its existdy.

Head of the Institution

Kenzo Sahara

Kenzo Sahara

DECLASSIFIED E.O. 12958 SECTION 5.402/RMDS NO. 7-1-81

Foreword (abridged)

By Shukei Ishiyama

Kakogawa Plan

1. Social studies + physics and chemistry =

1st core

Experiences in
Affairs of different seasons ~~and~~ and
annual events = 2nd core

2. Paid special attention to setting up
of Core curriculum and minimum
essentials to be woven into curriculum
to be built around the core.

3. Curriculum must constantly be
analyzed, ~~rept~~ revised, replanned
and reconstructed with the change
of time and needs of the young
people. Actual experiences of the
children in life require this re-
construction of curriculum and
educators' continuous efforts to
~~go~~ ^{see} one step ahead of the current
time.

Type of Battery	Voltage	Number of cases
3A 27	4.5 V	13
3A 40	90-1.5 V	3
		Total 16

at the same times I comply
 faithfully with the given directions and
 make the most of the gift for educational
 purpose and assume full responsibility
 for its custody.

Head of the Institution

Totaro, Harada



The Compilers Words (abridged)

By J. Otomi, Principal

Before organizing the Core Curriculum we carefully studied these problems:

1. What is living?
2. What is the difference between grown adults' life and children's?
3. What is meant by "guiding living"?

We made efforts to set up the core curriculum without lowering the standard of children's basic ~~knowledge~~ ability of study.

Receipt

To the 8th Army.
Military Gov't Section
Head of the Educ Institution
The Educational Institution
Nov 15, 1947

I express here with my sincerest
thanks to the American authorities for
the kind gift and acknowledge the
receipt of the casis of dry battery as
follows.

Name of prefecture	Name of Educational Institution
Hyo go.	Kamita Primary School

The Table of Contents

Pages

1. Foreword Shubei Ishiguro

2. President's words Ichigoro Otomi

3. Kakogawa Plan (Theory)..... 1

 1. Aim of education of this school..... 1

 2. Policy .. " " " " .. 9

 3. Concrete development of education..... 13

4. Table of Study Unit

5. Detailed Plan of Education 17
 (Practice)

(Supplementing tables)

1. Table of standard of daily work ---- 146

2. Example of weekly plan ---- 148

3. Evaluation of unit ---- 149

4. Charte of study materials ---- 155
 Contrast

Which article shall I translate?

F.A.

Breadth Type	22.5 V	3
		Total 9.

At the same time I comply faithfully with the given directions and make the most of the gift for educational purpose and assume full responsibility for its custody

Head of the Institution
Takasi Imoto.

Kabogawa Plan

昭和二十四年二月

加古川プラン（第一集）

兵庫縣加古郡加古川町立加古川小學校

序 文

カリキュラム構成の仕事が、全日本的な運動として、進歩的な教育者の間に、大きく波打っている。その成果はなお未熟であり生硬であるにしても、この運動が教育の民主化と現場の教育者の自主性を促進して、民主教育の建設に貢献しつつあることは、注目すべき功績である。しかし同時に、流行にかられたり、外形を模倣したりする日本教育界の通弊は、きびしく戒められねばならない。

加古川小學校は、職員組織においても、児童の素質においても、教育施設においても、何等特別の好条件にあるわけではなく、むしろ過大の學級数のゆえに經營上の難點を負わされている。それにもかゝらず、つとに新しいカリキュラムの構成に着手し、その實踐的研究につとめてきた。はじめの間は、この道の先驅者たる明石附小プランや新潟附小プランなどと同じ構想をもつて進んでいたが、わたくしは自ら考えるところがあつて、この方針の修正を勸告した。思うに日本の新教育運動の現段階にあつては、師範附小のごとき國立の研究機關は、文部省のものに有力な研究資料を提供する意味において、根本的に新しい立場から出發して、勇敢に實驗的研究を行うべきであるが、普通の市町村立小學校は、現行の法規と基準とを忠實に守りつゝ、それらの精神を、よりよく實現する意味において、新教育の研究と實踐とに努力すべきである。方向は同じであつても、出發點と進行過程とに關して、二つの場合が比較されることを、わたくしは希望しているのである。明石プランや新潟プランに多大の敬意と期待とを寄せながらも、他方において神奈川縣福澤村小學校やこの加古川小學校の行きかたに、深い關心を抱いているのは、わたくしのような見解に基づくのである。

加古川プランは、主として社會科と理科の内容を結晶させて第一コアとし、季節的行事的な生活内容を第二コアに組織している。その他の教科の内容も、コアに吸収されるものは吸収し、とくに取り出して修練すべきものは、コアとの關係を顧慮しつつ、周邊課程に配置した。この意味において、これはいわゆるコアカリキュラムであるが、現行の法規や基準との結びつきに留意して、中心課程および周邊課程に織りこまらるべき要素（ミニマム・エッセンシャルズ）を、各教科の立場から——もとより地域社會の要求と児童生活の實態とに照らして——分析検討し、これを一覽表に指示して、コアカリキュラムの背後に備えた。教科書との關連を明かにしたことも、同じ用意から出たものである。こうした堅實な段階を経過して、おのずから根本的な立場に到達し、そこからさらに前進しつつ、これまでの足跡をも止揚し意味づけて行くことを、わたくしは加古川小學校に期待しているのである。

各地方の學校が競つてそのカリキュラムを構成しつつある今日、それらに倣つて紙上プランをつくりあげることが、さほど困難ではない。困難な

そもそもつとも重要なことは、教育實踐に即して自信のあるプランを構成し、しかも教育實踐に照らして、これを不斷に再構成することである。しかもカリキュラムの再構成は、同時に若い世代の生活經驗そのもの、再構成であつて、そこには人類歴史の進歩に賭けて、教育者の倦まざる精進が要求せられる。成否を決する根本的要素は、巧みな模倣や小手先の器用さではなくて、世代を通じて歴史に誓う嚴肅な教育的良心である。

兵庫縣がわが國の新教育史上にのこした業績は、不朽の光輝を放つてゐる。敗戦の試練を超えて、再び起ちあがつたその前途には、荆の道を貫いて、一そう大きな榮光が待つてゐる。明石プランや加古川プランを手がかりとして、兵庫縣教育者諸賢が、うるわしい協力體制のもとに、勇敢な、しかも謙虚な歩みを進められるように、心から祈念する。

「今日の最善を信じて勇敢に、より善き明日を念じて謙虚に。」——これが加古川プランを通じて、兵庫縣下ならびに全日本の同志諸賢に贈るわたぐしの座右銘である。

昭和二十四年新春

石 山 脩 平

はしがき

去る昭和廿二年九月に社會科が實施されるようになり、我々はまずこの方面の研究に着手した。社會科の目標は出来るだけりつばな公民的資質をもつた兒童を養成しようとするものであるが、その方法として地域社會のもつ社會的機能や兒童の生活をどう見るかということが問題となつた。そして具體的には如何なる學習内容の選擇をなすべきか、作業單元は如何にして設定するかということに直面した。その結果本校に於ては地域社會の特性にかんがみ社會機能を消費、通信運輸、生産、保健、保全、教養娛樂、政治に七分類し、各學年の心理發達を考慮して一應社會科の單元を設定した。この單元設定には兒童の興味とか經驗内容を重視した關係上、小單元が數多く排列され、學年の發達の系列に客觀性を欠いてゐることに氣づいた。そこで我々の問題としたことは、一體「生活とは何ぞや」「兒童の生活と大人の生活とはどう違うか」「生活を指導する」ということは、どんなことか」等であつた。この問題については、こゝで簡単に解答出来ないが、我々の到達した點は、教育は文化を理解し且創造する作用であり、過去の文化は生活現象の中へ具體的に溶け込んであるということである。故にその生活現象を一定の方案のもとに計劃的に學習の内容として織込むことによつて教育は可能であると。こういう立論によつて我々は生活指導の教育を採上げ、學習の中心課題を生活を經驗する方向に求めたのである。そこで教科的に考へると社會科は勿論、理科、その他の學科が元々生活經驗の主題と作用とに關連して入つて來ることを實際的に經驗したのである。人よく、理科は何故に中心學習に入れたかという質問をするが、これに對しては簡単に次の解答を以てしたい。即ち具體的な生活現象乃至は社會現象はその基盤としてその地域の自然及び地理的現象によつて基底づけられておると。又、科學及科學器械等は勿論生活の中に放射されておるものである。さて、實際問題としてこのコアカリキュラムを實施するとして、教育關係規約や教科書の問題、さては兒童の學習基礎力といつたものが問題視される。そこで我々の態度としては、あくまで普通の公立學校で實施して差支なき案、學習の基礎能力を低下させない案ということであつた。前者は本細案の末尾に附した「學習材對照表」によつて一應の回答をなし、後者は本校の基礎學習の性格構造によつて證明し得ると信じてゐる。尙、本校プランに於て特に述べたいことは各單元の展開において兒童の活動を中心に採上げた所謂活動カリキュラムに仕組んだ點である。

しかし、この細案は勿論完全なものとは思つてゐない。今後學者實際家の批評をまつて漸次修正を加え、理想的なものにしたいと念願してゐる。我々のこうした考え方に對して懇篤な御指導と助言を賜つたのは、東京文理科大學教授石山脩平先生であり、この案の作製に直接的動因を與えてくださったのは、東京中央教育研究所倉澤剛先生である。尙又、これが實踐指導に直接間接に御助言をいただいた兵庫師範女子部附小の長井先生、參觀と視察に幾多の便宜を與えてくださった先進諸學校の諸子に對し謹んで敬意と感謝を表する次第である。

昭和二十四年二月

學校長 大 富 一 五 郎

加古川プラン（理論篇）

第一 本校教育の目標

一、地域社會の特性と教育目標

教育基本法や學校教育法に示された教育の目標は一般的、普遍的なものであつて、我々實際家は「この土地の教育をどうするか」という近接感のある具體的目標を把える必要がある。何となれば教育という仕事はいつでも現實を出發的として理想實現をめざす過程における具體的な営みであるからである。私共はかゝる意味においてまず本校教育の考え方の基本となるべきものを地域社會から求めようとした。そして私共は次の二調査をもととしてこれに教育的考察を加え決定しようとした。その二調査というのは一は地域社會の特性を（一）自然科学的立場から、（二）文化現象の立場から、（三）歴史的推移の立場から、（四）經濟的立場から調査し、他方は教育の一般的目标を父兄に示して希望の聲を聞こうとしたのである。以下それらの點について調査を基礎として教育の具體的目標を設定しようと思う。

1、地域社會の考察とそれから生れる目標

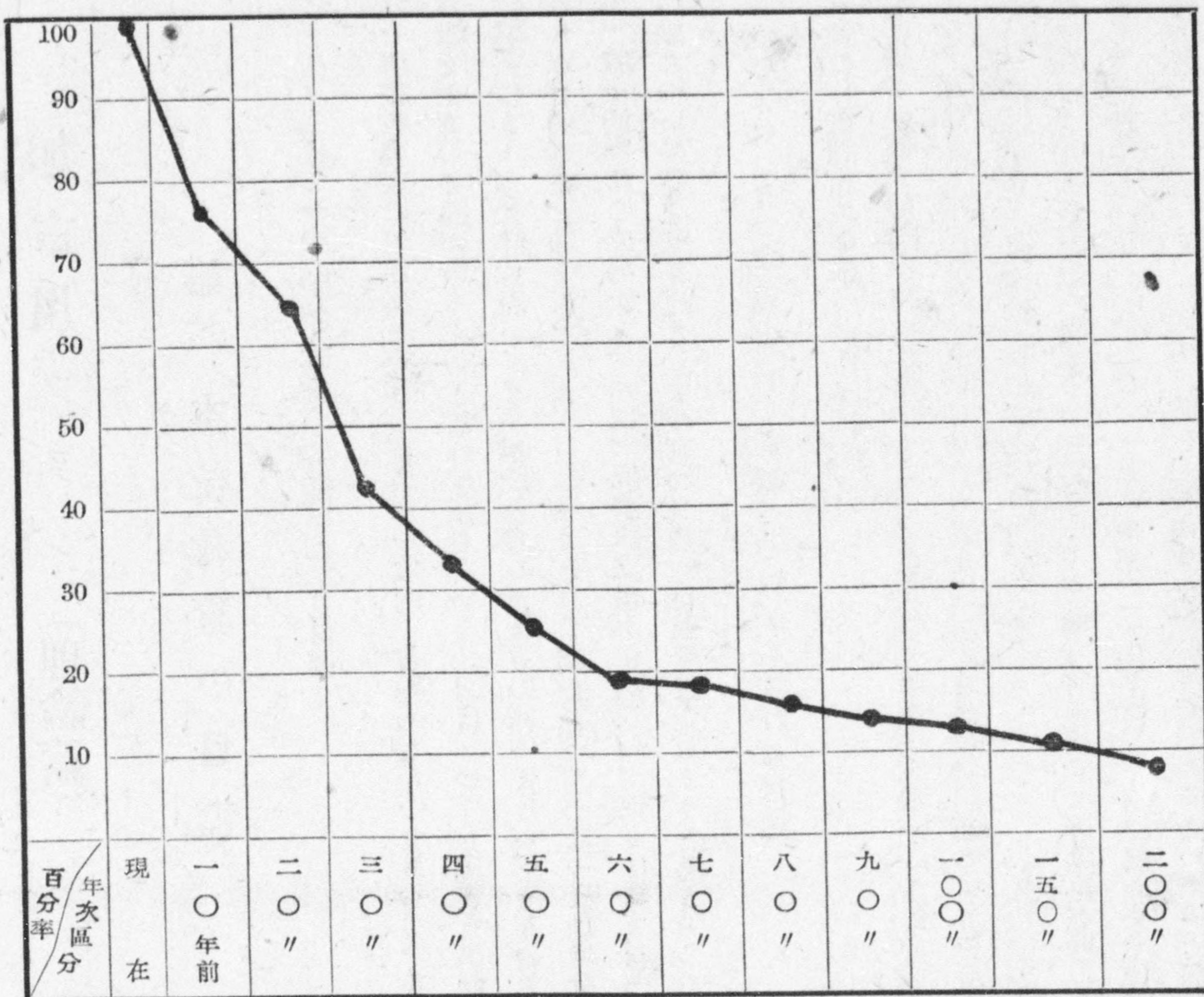
まず地域社會の特性調査から述べよう。

自然科学的立場より觀た郷土の地域社會はまことに恵まれた土地であるということである。本町は人口約二萬五千、町の西端を貫流する加古川の本流は所謂デルタ地帯としての播州平原を形成し豊饒な沃土を東西に展開している。年平均氣温二二・六度、内海を約四軒の地に臨み年間殆ど降雪を見ることなく人間の活動には甚だ有利である。

文化現象の立場より觀るときはなかく意味が深い。交通方面に於ては山陽線が街の中央を東西に貫通し、周邊地方に通ずるバスはこの地を起點としている。教育機關としては二新制高校、一新制中學、二小學校、三幼稚園あり、特に新制高等學校は加古、印南兩郡の生徒が殆ど通學する現狀であり、この點からみ觀てもこの地方は附近農村の文化中心地帯であるといえる。保健衛生の點より觀るときは縣立加古川病院、外四病院、開業醫

第一表
世帯数増加状況

調査数 (3159世帯)
昭和23年12月 調査



二

各科二十一醫院に及び、交通機關の利便と相俟つて附近農村より來診を乞うもの多くこの點また農村地方の中心地ということが出來よう、然し上水道、下水道の完備してないのは遺憾な點で本町の解決すべき一大課題である。

歴史推移の上から觀察するときは本町が地方商工業の中心地として急激に人口の増加を示し、又は移動が可なり激しい事態を示している。(過去五ヶ年間人口膨張二六〇〇名)(最近五ヶ年の出寄留一六五七二人に對し、入寄留四二二三六名、差引増二五六六四人)尙、世帯数増加は第一表の通りであり、最近四十年間に約三倍の人口に達している。尙又世代異動については祖先より住んでいたもの三七%、自分の代に移つてきたもの六三%(氷丘地帯を除く)という率を示している。これ等はこの地域が經濟生活その他の事情より最近非常に發展し、又將來この方向をたどるのであるという豫想がされるのである。

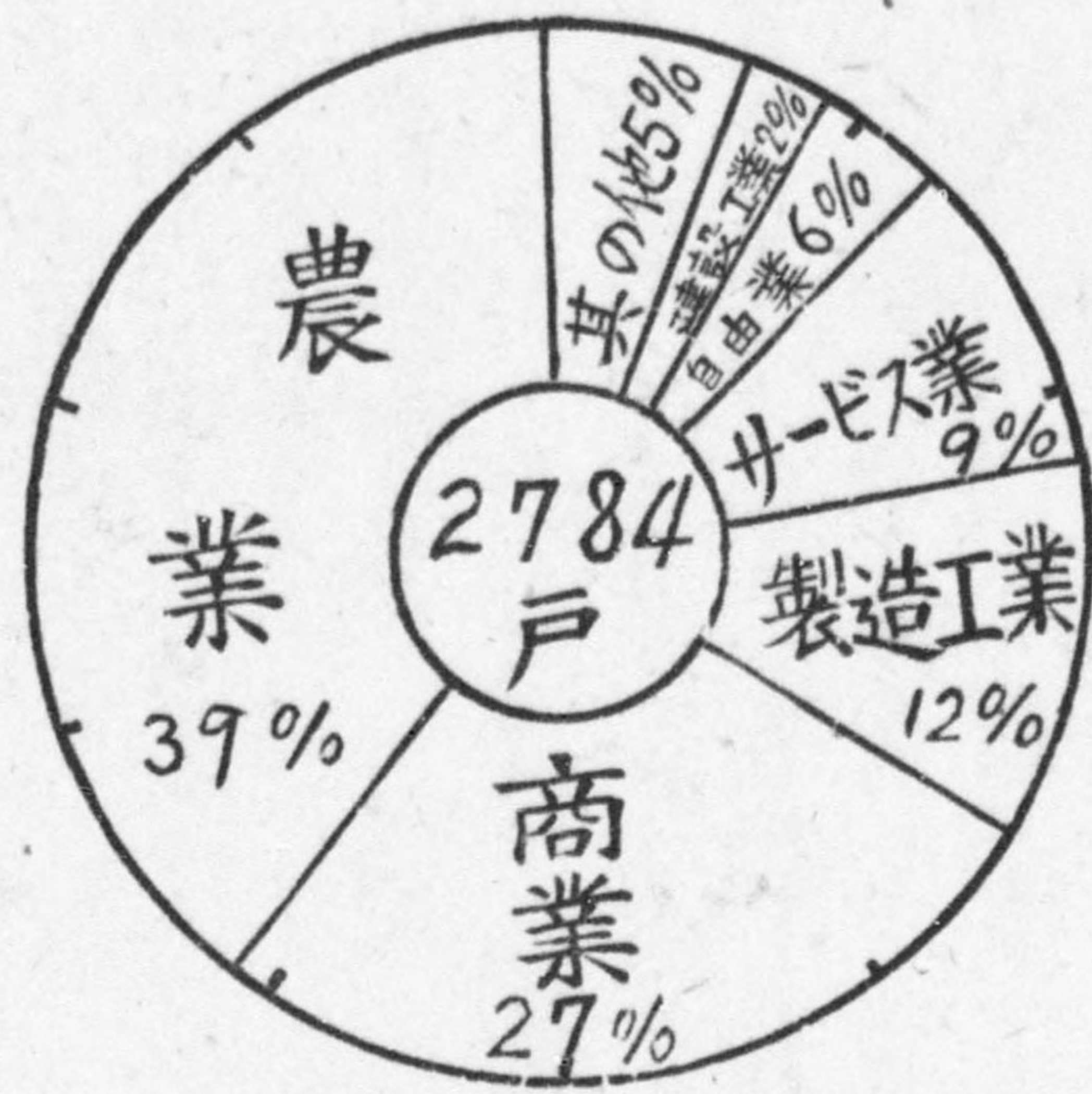
次に經濟的立場より見ると次の諸表が地域社會の實狀を如實に物語つてゐる。即ち第二表においては農、商、工の各種業が重要な地位を占めてゐる、これは町の周邊地帯が農村で中央の市街地が商工業地區をなしているということである。

工業方面

第二表

本町の職業別調査

(昭和23年調)



第三表

商工業の職種別調査

(昭和23年調)

職種	戸数
洋服、仕立業	30
大工業	29
製粉、精米	25
パン加工	24
京染	14
石工業	14
印刻業	11
ぶりき職	7
種桶製作	7
豆腐製造	7
鐵工所	6
土建業	5
其他	25
計	204

第三表は更に商工業を職種別にしたものであるが、この表で見るとこの地域社会の商業が如何に多彩的に擴がつているかということと、附近農村地帯の中心的消費地であるかということがよく肯けるのである。

尙、本町として尙、本町として特記しなければならぬことは、明治二十九年創業にかゝる日本毛織物會社加古川工場があることであり、その従業員三千七百餘名におよぶことは當地方の經濟機能の内容に大きい特色を持つてゐる。

以上、四つの觀點から觀たように本校を中心とする地域社会はこれを大まかにまとめると、その自然的位置が瀬戸内海に近き播州平野の中心地帯にあり、且、交通機關の便が東西にひらけその兩翼に神戸、姫路の都市地帯をひかえていることは、生産的にも活潑な地方であり、市民の生活も文化都市的傾向を帯びていることが肯ける。かかる事實は一體我が校の教育の具體的目標に如何なる要求をなすか、それは次に述べ

商業方面

職 種	戸 数
飲 食 店	91
化粧品、小間物、雜貨	57
古 物 商	46
八 百 屋	42
パ ン 菓 子 販 賣	38
生 魚	34
整 髮	30
荒 物、金 物	29
た ば こ 小 賣	27
下 駄 履 物	26
喫 茶 店	23
自 轉 車 預 り	23
家 具 建 具 商	21
洗 濯 業	19
旅 館	16
牛 馬 商	16
時 計 商	15
寫 眞 撮 影	15
靴 店	14
カ フ エ ー	14
玩 具 店	13
文 具 店	13
藥 屋	11
浴 場	11
農 具 店	11
料 理 屋	11
種 苗 店	9
其 の 他	81
計	756

ようとするところである。

かゝる地域社會の特性は具體的に種々なる示唆を我々に與えるがその主要なるものを挙げると

- (一) 文化を身につけた教養ある人
- (二) 生産を積極的に、消費を合理的にする人
- (三) 道徳的公民的態度のある人
- (四) 發展的積極的活動の出来る人

ということになるう、その一々について地域性との關係を詳述したいがこゝではそのいとまがない。そこで簡単に理由づけると、當地域は交通機關の便に恵まれ阪神間、姫路方面との關係が深く都市文化は容易に移入される。この事柄については前述した通りで教育の方向としては正しい文化を理解し、これを身につけた人ということを目標として、兒童の言語、態度、及び情操方面の教育に意を拂ねばならない。次に生産消費の面から考えると第三表に示された通り當地域は中小商工業の地帯であると考えられる點から、殊に生産意識の昂揚と消費生活の合理化を圖る爲、この方面の學習單元には重きをおき、且日常生活の指導においても大いに留意を要するわけである。更に次の問題としては道徳的、公民的態度の勝れた人ということであるが、これは終戦後の社會現象が農村地方に比して憂慮すべき状態であつたり、兒童の反道徳的行為が都市的傾向を帯びて面白くない

事實からであつて、父兄、社會の聲としても徳育の重要性、躰の重視をしばしば聞かされることである。最後に發展的、積極的活動の出来る人というのであるが、これは前述の歴史的推移の現象から考へても肯ける理由で、純粹的な生産地域の人間のように郷土に祖業を襲ぐといつた形ではなくて、他地方に出て事業を起し、多種多様の仕事に従事するという特性をもつているので、この面から考へても學習内容を多彩的にし、生活を廣く豊かにとりあげるといふ方向に向かうのが適切であると思われる。

以上概括したような理由から上述の四點を一應具體的な教育目標として考慮したのである。

2、教育目標に對する父兄の希望

次に第二の調査結果として、第四表を示すことにする。この調査は教育の一般目標について第一類から第五類に分類したものを父兄千四百家庭に示し、千二百三家庭についてその回答を得たものである。

第四表 教育目標に關する父兄の希望調査 (昭和二十三年末調)

第二類 家庭生活について	第一類 個人的な生活について	問 題	
		人 員	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭内で常に明るい生活の出来る人 ○ 家の中で自分の立場をよくわかまえる人 ○ 家庭生活を科學的に改善していく人 ○ 家族に對し思いやりのある人 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宗教的な心の深い人 ○ 國語を正しく理解し使用し得る人 ○ 趣味の上品な人 ○ 道徳的に正しい生活の出来る人 ○ 生活を科學的に處理し得る人 ○ 眞面目によく働く人 ○ 體が健康で衛生によく注意する人 	<ul style="list-style-type: none"> 一 二 五 七 六 五 二 三 六 〇 一 〇 七 三 三 一 一 五 二 	<ul style="list-style-type: none"> 一 〇 六 六 四 四 二 九 九 九 二 八 一 三
		<ul style="list-style-type: none"> 六 三 六 一 九 九 一 二 六 二 四 二 	<ul style="list-style-type: none"> 五 三 一 七 一 〇 二 〇

第五類 經濟生活について	第四類 社會生活について	第三類 職業生活について
<ul style="list-style-type: none"> ○困苦缺乏に耐えられる人 ○堅實な生計につき工夫する人 ○入用な金の出し惜しみをしない人 ○經濟界の見透しのきく人 ○物を大切に經濟的に使用する人 	<ul style="list-style-type: none"> ○禮儀正しい人 ○責任觀念の強い人 ○他人の人格を重んじる人 ○政治的な關心の強い人 ○正義觀の強い人 ○お互に力を合わせて世の中を立派にしていこうとする人 ○世の中のきまりをよく守る人 ○國際的協調的の心のある人 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業の尊さを自覺し職務に忠實な人 ○熱心に研究的に職業に従事する人 ○科學的な態度で産業の發達に貢献する人 ○新しい日本の産業を起すことに熱意のある人
<p style="text-align: right;">四四九 二四〇 八一八 三一八</p>	<p style="text-align: right;">一五六一 四二〇 一〇二 三四五 三七</p>	<p style="text-align: right;">五五二 三七〇 一二二 一五九</p>
<p style="text-align: right;">三七 二〇 一〇七 二六</p>	<p style="text-align: right;">三五 二九 八三五 三五</p>	<p style="text-align: right;">四六 三一 一〇 一三</p>

この調査結果を頻數度の高いものについて教育的考察を加えると、

(一) 個人的には

○道徳的に正しい生活の出来る人

(二) 家庭人としては

○家庭内で常に明るい生活の出来る人

(三) 職業人としては

○眞面目によく働く人

○體が健康で衛生によく注意する人

○職業の尊さを自覺し職務に忠實な人

(四) 社會生活については

○責任感の強い人

○お互に力を合わせて世の中を立派にしていこうとする人

(五) 經濟生活については

○困苦缺乏に耐えられる人

○物を經濟的に大切にする人

というようになる。

そこで我々は第一項の地域社會の特性から觀た教育目標と、第二項の教育目標に對する父兄の希望と、更に教育基本法、學校教育法の條文の精神を參照して我が校の教育の具體的目標を決定しようとするものである。

二、我が校教育の具體的目標

上敍累々述べ來つた如く我々は教育の具體的目標を決定するにあくまでも現實の地域社會の要求を基盤として、これに教育的考察を加え判斷する方途に出ようとしたのである。そこでこれ等の具體的諸要求と一般的普遍的要求を照合し、比較し、拾捨し、綜合して次の五項目を設定したのである。即ち

(一) 健康で耐乏力が強く道徳的生活の出来る人

(二) 文化を理解する豊かな感情をもつた人

(三) 物事を科學的合理的に處理實踐出来る人

(四) 責任感が強く民主的な生活の出来る人

(五) 眼界が廣く識見に富む人

である。

以下これ等の目標について簡単に説明を加えたい。

第一項の「健康で耐乏力強く道徳的生活に勝れた人」ということは、人間の生きる根本は健康であることと同時に、現下の我が國情に於て衣食住すべての生活に耐乏出来る人が必要であると見るのである。殊に地域社會の人々の特性としては生活には活潑で積極的ではあるがやゝこの耐乏精神

に乏しい感があるので殊更この項目をあげたのである。道徳的生活に勝れた人ということとは父兄からのしばしなる希望も強く、現下の社會相より觀て教育の上においてはあらゆる機會とあらゆる場所に於て怠つてはならない大切な方面であつて、本校に於ては教育計劃にこの點を強くとりあげている。

第二項の「文化を理解する豊かな感情をもつた人」ということであるが、これは一言にしていうと、平和な文化國家の國民的資格に於て是非顧みなければならぬとするのである。そこで都市文化の移入の盛んな本地方としては正しい文化に對する眼をひらくこと、偏狹な國民文化に閉鎖されず廣く世界文化人類文化を觀る態度を養わねばならぬ。私共はかかる意味に於てコンミニユテイスクールを正しい意味に強調したのである。この觀點よりして本校のコアカリキュラムの内容も發展的、開放的に仕組んだ積りである。

第三項の「物事を科學的、合理的に處理實踐出来る人」これは一言にしていうと生活の種々な場合に直面して自分の力でこれを合理的に解決し、巧に順應し得る力をもつた人間を理想とするのであつて、從來の教科書本位の教育は現實の生活を切りひらく知識や技能を養うにはあまりに力弱くまわり遠い感があるので、本校に於ては生活中心の學習、生活を経験させる學習法をとりあげたのである。この方法によると生きた具體的な生活の事象や事柄に接して綜合的な力を働かせこれを研究し解決する過程に於て物事を科學的に處理し、生きた知識や技術が收得構成されて行くものであると考へるのである。

第四項の「責任感が強く民主的な生活の出来る人」ということは、所謂ソーシャルヒューマニズム（社會的人間主義）の立場において社會生活をなすよう導こうというのであつて、これがためには個人はその個性を發揮すると共に他人の人格を尊重し、互に協調友愛の精神をもつて生活をしなければならぬとするのである。しかして、その根本となるものは自己の責任感である。そこで本校では責任を以て分業的に學級の仕事をしたり、學習をしたりすることの組織と方法をカリキュラムに導入している。

最後に第五項の「眼界が廣く識見に富む人」ということであるが、これは偏狹的な國家主義に陥らず廣く眼界を世界の動向に傾け、平和にして民主的な人類社會を建設しようと思圖する教育をさすのであつて、これが爲には往々にして陥り易い歪んだコンミニユテイスクールでなく開放され發展するコンミニユテイスクールの形態を探ることに注意し、中心學習の内容も郷土から社會へ、社會から世界へと擴がるように學習内容を組み立てた次第である。

これを要するに本校としてはコンミニユテイスクールの原理に立つてその學習内容は以上の五項目が遺憾なく織込まれたコアカリキュラムの教育案により、眞に民主的にして生活の實踐力を豊かにたくわえた兒童を育成しようと念願するものである。

第二 本校教育の方針

一、單元學習の採擇

地域社會學校としての運営を出發點として、新教育の目指す理想的人間像形成の生活カリキュラムによつて、本校教育を位置づけをしようとして現在まで辿つて來た道程を回顧してみよう。

社會科の設定に伴い、學習指導要領一般篇を唯一の手引として、とりあえず社會科作業單元を作成し、これを基として授業を開始してより現在の生活カリキュラム編制に至るまでの過程を二期に分割して考察することが出来る。

第一期 作業單元の研究並實踐についての反省

發足以來、本年六月までは暫定的作業單元によつて授業を進めながら、研究と反省を加え、よりよい單元の設定を目論んで來た。その間、私達の研究と協議は勿論であるが、理論的に又實踐上に行きつまりを生じた場合は、先進の實踐家或は理論研究家を招いて打開に努めて來たのである。その結果私達は次の諸點について漸次反省することが出來た。

1、單元について

○單元設定が合理的でない。即ち單元を郷土の自然環境——景觀とか動植物、或は行事——家庭、學校、郷土及社會を主體とし社會機能について考慮されていない。

○兒童生活に對する考慮は拂われているが學年の進行性が見えない。

○單元の數が多い。兒童は同一單元に尙多くの時間をかけうる意欲と持続性を持つてゐる。

2、兒童の學習態度

兒童の社會科に對する興味はまことに熾烈であり、所定の授業時數だけでは満足しない。

3、カリキュラムの構成

學習内容は社會科、理科に止らず他教科の挿入がしばしばある。即ち社會科の内容は他教科を多く含む可能性がある。要約して以上の如き問題を持つたのであるが、特に社會科と他教科との壁をとり除いた學習内容と方法が用意されるべきであるというカリキュラ

ム構成に問題の焦點が移動していった。當時中央教育研究所の倉澤剛先生の御指導によつて、カリキュラムは、生活の體系にもとずく學習活動から組立てられるべきであるという理論から、生活カリキュラムへの轉回が思考されたのである。

第二期、經驗カリキュラム研究へ

民主社會では、ものごとを総合的に考察し生活の問題を正確に解決し得る総合的な人間を要求する。従つて、近代學校に於ては從來の斷片的性格を打破して生活中心の総合的學習を構想する綜合カリキュラムによらなければならぬ。

生活力をもつた實踐人形成は生活から游離して育成されるものではない。生活は社會中心の大人の生活でもなく、又兒童中心の耽溺的な子供の生活を指すでもない。大人と子供、長幼一體の生活において、兒童は兒童なりに一個の自由な社會人として、責任と奉仕と協力を果しつゝ生活することによつて、よりよき生活者となり得る。それでは現實の生活とはどんなものであるか。そこには、あらゆる知識や、情操、技術が未分化のままに動き流れている綜合體と見ることが出来る。兒童はこの中に生活しあらゆる經驗をつみつゝ活動を續けて社會的成長を營んでいたのであつて、この間に人間關係、自然關係、或は表現技術といつたものについて理解し習得して行くのである。これを學習内容から見れば社會、自然、表現であり、これを學習經驗の立場からいえば社會科と自然科、表現科の三教科となり、さらにこれを基礎づける言語、數量形等が考えられるのであるが、兒童はこの基礎となるべき國語、算數等から三分野の教科内容を生活することによつて綜合學習して自己を伸しつゝあるということが出来るのである。まことに、デューイのいつている「教育は經驗のたえざる再構成」である。

こうして、從來の教科カリキュラムの持つ斷片的性格を打破して、生活中心の総合的學習から學習の全體計劃へと私達は前述の地域社會の要求する人間像を描きつゝ生活カリキュラム理論を基盤とする教育計劃の必然性に到達しなければならなかつた。

二、地域社會の機能の重視

教育が現實の社會に於ける人間を、理念としての完全な社會に於ける社會人たらしめようとするとき理想が成り立つ。即ち現實の向うべき方向を具體化しなければならぬ。そこに形成しようとする人間像が考えられる。しかも現實の社會のもつそれぞれの地域社會の特殊性を認めて地域社會の要求を中心課題とする教育計劃を必要とする。それは郷土の要求を中心としながら、さらに外界と有機的密接的な關連のもとに發展性あり且具體的なものでなければならぬ。「郷土を出で、郷土にかえる。」とは從來の郷土教育の立場からも主張された言葉であるが、弾力性あるコミュニティー・スクールを目論まなければならぬ。

そこで本校に於ては、地域社會の要求を一般に紹介されている社會機能と、郷土加古川町のもつ性格の両面から勘案して、こゝに次の七項目をとつたのである。即ち生産、通信運輸、消費、保健、保全、教養娛樂、政治によつて地域の蓋然性を見ようとした。然して社會機能の要求を實態調査から集録、これをさらに教育の一般目標と對照して地域社會學校としての教育目標を把えたのである。尙社會と學校の在り方については、從來の稀薄關係にあつた両面の結合をスクールセンターの立場におくべく、具體的教育目標設定の途次に於て地域各層代表と屢々面接、會合の機會をもつてその意見を求めたのである。

具體的教育計劃は、さらに兒童の生活の經驗領域の面から考察しなければならぬことは勿論である。兒童の生活領域を調査すべきものとして

1、興味と經驗の傾向 2、社會意識 3、學習傾向
を考へた。本校に於ては調査技術と調査内容の項目選定上から幾多の困難を豫想して、文献に頼るべきものと、調査方法及び處理について見通しを立て、一應次の如き調査を全校兒童に實施したのである。今こゝにその詳細な結果を記すことが出来ないが

1、行動範圍の調査 2、興味調査 3、經驗調査

によつて兒童の生活領域及興味、心理特性に對する基調となるべきものをとることが出来たのである。

かくて、社會機能と經驗領域のクロスする點に學習單元を設定した。(學習單元表参照)大體一機能一單元の大單元制を取つたのは前述した如く、兒童の學習能力と興味の持續力の心理的觀點から特に考慮に入れたものである。ただ一年の政治機能については兒童の興味と經驗とから勘案して「學校」を教養娛樂機能において果すべく政治機能欄をあげたのと、六年の通信運輸機能において「卒業旅行」と「日本の旅」を置いたのは兒童の計劃性と實踐力を考へての處作であることを特記したい。

次いで單元の展開を豫想して學習活動の計劃を立てるのであるが、これは教育目標に合致するのは勿論であり、さらに目標達成のために單元の到達すべき方向を示したものが單元目標である。單元目標は生活學習に展開される。生活學習は兒童中心、社會中心の両面を止揚した長幼一体の生活において現實の生活をそれぞれの立場において營むものである。さらに、生活學習は中心學習と基礎學習を構成する。これらについては後に詳述したいと思う。

三、プロジェクトの重視

近代教育の要望する所のものは、綜合的統一的人間の形成にある、兒童が全一的な生活を營みながら、全体としての兒童が身近な生活に場をもつ具體的な問題と取り組み、全我をかたむけた目的的活動を營む姿を中心學習に見ることが出来る。従つて中心學習の展開は、兒童の自主的な構案と、計劃によつて進められるものであり、その活動は兒童の經驗に基き、全生活の流れに従つて行われる種々の學習活動を綜合する場であり、プロジェクトによるより豊かに、より意義ある生活の設計がなされるのである。そこに展開される具體的な活動形式としては調査、研究、實驗、創作、或は報告、討議演出等の多彩的にして且兒童のフルな活動形態をとり、又學習形態としては、個人、分團全体等の形式を段階的に、或は繰返しとられ

なければならぬ。従つて児童は受身の學習から、積極的な探究に轉じ進んで自發的に問題ととり組むのであつて、この意味から個人學習の基幹ともなり同時に發展ともなる自由研究への活動を重要視しなければならぬのである。

かくして、私達は児童の生活學習の場を全一的綜合的な中心學習の全体計劃に求めながらも之をより高め充實せんがためにはこれを基礎學習に求めなければならぬ。又實踐の立場から考察されることは所謂生活指導の位置づけであるが、これらについては項を改めて記述したい。

四、協同生活の場としての學校

教育がまさにあるべき姿として理想的社會の人間像形成を意圖する以上、児童の營む學校生活に於ては彼等の個性的な存在と同時に社會的存在であることから出發しなければならぬ。個性と社會性の綜合された生活においては、自律と協同の融合統一化された生活を自覺する。學習時、特に中心學習の一形態である協同學習、或はグループ學習に於ける児童各自の協力と奉仕、又は自由と自律ある生活態度こそ、民主主義生活の原理を以て体得するまたとない生活指導でなければならぬ。ここにも教育の全体計劃の綜合性の必然性が痛感されるのである。従來の斷片的性格をもつ教科カリキュラムに於て行われた生活指導の意味ではなく、生活學習、社會生活の場から見て教育は實踐指導の場所であるとも解釋されるのである。近時論議されるガイダンスの意味は一應この點から私達に了解されるのである。本校に於ては児童の全体的な教育計劃をすると共に生活指導の場として、曆及行事をあげて學習内容として、所謂挿入課程ではあるが、特に児童の全體的な人格或は性格行動の指導に注視を向けていたのである。特に近時餘程矯正されたといふものの、戦後の社會環境にあつて荒み切つた児童の情緒的、社會的適應の指導が一連の生活指導を通じて、現場においてしかも個性に即しつつなされなければならない。尙私達は地域社會の要求として、「自治教育に努力せよ」「躰の重視」「規則正しい嚴格な教育」「民主的な人間の形成」「伸々と明るく育てよ」等、戦後教育に對するきびしい批判を聞くことが出来る。これらは新教育の目標とする民主社會に於ける實踐人形成という形で一括されるものであるが、現下の教育計劃に課せられた問題であり廣く教育實踐家の反省と考慮を拂うべき點であると共に、児童の自主性を基調として人格、性格の指導面を重視しなければならない。

五、個性の伸張

従來の教育においても主張された如く、教育において児童のもつ個人差を無視した指導はあり得ない。教育基本法等諸法規の指示する如く、實踐的社會人の形成は個人の完成を究極の目標とせねばならないのである。個々の長所を伸しつつ全體に協力し奉仕することによつて社會の發展に寄與せんとする教育要求は變る筈はなく、むしろ現下の我國の諸狀勢からは益々強調されるべき點であろう。さらに戦時中、戦後を通じて脱落され來つた諸種の能力、技術は今後の生活學習に一大支障となるであろう。この點から全く角度を異にして見るならば本校のねらう基礎學習は勿論、特にとり上げた日課としての「けいこの時間」はこの意味をよく表わすものである。

その他實施中の音楽、圖畫等のクラブ活動中心及び基礎學習における自由研究は共に個性の伸張をねらうものであり、或は學級に於ける知能指別

導の場、さらに細案末尾の豫定及實施時間、或は表現活動時間数は公立學校としての普遍妥當的立場を示すものであると共に究極に於て個性伸張をねらうものであり、且、知的中心に走らず生活指導の意味を多分に持ちつつ全人格育成への到達を期するものである。

第三 本校教育の具體的展開

一、中心學習

1、中心學習の性格

中心學習は、兒童自身の生活を兒童に營ましめる生活學習の中心をなすものであつて、教育の全體計劃の中核の位置を占め、カリキュラム全體をひきしめている意味から中心學習というのである。

そこでなぜ生活經驗を重視する教育カリキュラムをとるのであるかということであるが、新しい教育の目標は、兒童をして社會生活に適應せしめ且より良き社會建設の實踐力をもつ民主的な人間を育成するにあるからである。そこでその方法はどうかという點であるが、せんじつめたところ、兒童に社會生活のあらゆる場面を生活させることにより、將來より良き生活を作りあげてゆくという生活學習論の立場をとることが最も適切であると考えられるのである。もともと生活というものは、人と環境との相互の働きによつて成立するものであり、日常の何んでもないような一つ一つの經驗(生活)の中にも學習があると見る教育的立場においては、兒童の日常生活の環境をより良きものとして構成することが大切であるということになる。そして又環境を構成するということ、兒童の自發的な極く自然な學習を助成するということにもなるのであつて、兒童の發展を助長する作用が教育であるということにもかなうわけである。即ち、近來の教科カリキュラムが本來の教科書中心主義から脱却して、單元學習中心主義にまで進んでいったことは、たしかに進歩ではあるが、この場合、重視せられた生活というものはあくまでも各教科を中心としたばらばらの生活であり、綜合され統一された生活意欲を中心とするまとまつた生活ではないことに氣附くのである。このことは教科中心という分科主義的考え方からして止むを得ないことであるが、こうしたばらばらの知識は兒童が自己の生活を處理し實踐して行くのに今一步適切なものであると言えない。そこで本校に於ては全體的な生活學習の立場に立つてよりよき環境を兒童の周圍に整理し、その環境に兒童を働きかけさせてまとまつた生活を現實的にさせて行こうというのであつて、この立場から教科中心の單元學習を超えて生活中心の單元學習に到らうとするのである。そこであらゆる生活が噛み合い、からみあつた日々の經驗に學習があるのだと考える生活學習は、社會の生きているまゝの自然や生活現象を教育的に整理して兒童の學習内容としてとり入れようとするのであるが、これがとりもなおさず中心學習の内容となるのであつて、この内容を組織化し系統化したものが生活カリキュラムの構造であり、經驗カリキュラムの内容である。しかし生活カリキュラムは學習する主体が兒童であるという點から細み立てられなければならない。兒童が社會に於いて生活し、且つ學習するものであるにしても、大人の生活のすべてを學びとるものではない。従つて生活カリキュラムの内容は兒童の立場からも選ばれるものであり、それには兒童の興味や經驗内容を重視しなければならぬ。この點から本校では既にこの方面の調査を進め、その結論を單元設定の参考としたのである。かくて單元及其その内容が適切であるときは兒童は積極的にその活動を展開

する。そして興味から興味へ、欲求から欲求へと働きかける目的々な活動がなされるのである。言いかえると、児童の生活は興味の波のようなものであり、欲求から終末までの連続的な流れでありその過程である。従つて生活カリキュラムの内容は、児童の心理的発達と社会の要求との二つが、総合されたところに單元として設定せられなければならないことを繰返し申したい。中心學習はこの單元の學習である。即ち單元學習は児童の興味に出發するところから始まる。そして興味をもつた學習は調査となり研究となり遊戯となり摸技となつて多彩的な活動を展開する。しかしそれらの活動のすべては、児童自身の興味と意欲の方向に従い自主的な計劃によつて行われるのである。従つて單元學習は児童自らのプロジェクトによる活動學習であると規定できよう。かくの如く多彩な活動によつて児童は社会の現實に直面し、之を理解し又問題を解決し、更に理想的社会の構成へと自己を進めて行く。これは教育作用の側から見ると計劃力、實行力、構成力が練られ、此の間に實際的な生きた知識技術が身につくに至るのである。しかしそれだけではない。それと同時に児童は進んで學習を行い、不斷に現れてくる新しい現實に向つて邁進し、またより良き人生を建設してゆくという氣持や態度も身につけるものであつて、このことはより良き性格を内部に形成してゆくという大切なことである。

2、中心學習のあり方

單元の展開にあつて、児童自身が自發的に生活するように、まず變化のある多くの活動が用意されなくてはならない。それはコアとしての一日のプログラムの上にも、また生活學習の過程にも大切なことである。この活動が學習過程の各所に現れて児童の興味をひきしめ経験を豊かに盛り上げて學習を有効に展開してゆくのである。このことから學習の過程を大略次のように段階づけることができる。即ち構案、遂行、構成、反省發展である。

1、構案の段階 児童は問題に對し何とかして解決したいという欲求にかられ、解決方法を考える。この場合學習形式としては討議がくり返され教師の意見をきき仕事の内容と分擔を決定する。この段階で注意しなければならぬことは必要に應じ豫備調査をなし具體的に實行できる方法を樹てるということである。

2、遂行の段階 児童はすぐに實行にのりだす。この時見學、調査、研究或は構成などの方法によつて解決しようとする。この遂行の段階は特に個人又は分團の活動が活潑で、分團又は學級に對する責任は旺盛になつてくる。それはとりもなせず個人や分團社會が協同生活體としての學級に對し責任感を高め協調、奉仕の美しい精神態度が養われるのである。このようにして個々の児童の生活は深められ伸展してゆき、その過程に於て生きた知識と技能や態度は練られて行くのである。

3、構成の段階 研究された結果はグループ又は全體に持ち寄られ、相互の研究に奉仕されるので、この場合多くは報告や討議、演出其他の表現活動が盛んに行われる。そこでそれらの發表は學級全體に於て検討され批判され更に價值高きものにまで止揚される。ここでは教師の任務は重大で、個人や分團の發表を單元目標の方向にうまく指導して行き、全學級の児童に満足感と協調感を與えるように導いて行かねばならない。

4、反省發展の段階 以上のような過程段階を経て單元學習は一應終るわけであるが、児童の個々については更に新たな問題を發見し研究を深め

たいという欲望もあろうし、又時によつてはグループを組んで不満足な點を更に調査構成しようという方向に發展する場合もある。かくて児童は不斷に新しい關係ととり組み新しい自己を開拓するようになるのである。

二、基礎學習

1、基礎學習の位置

本校カリキュラムをどのように展開していくかという教育プランには中心學習と基礎學習、生活指導の二段構えをとつてゐる。中心學習には前項に説明してゐる如く一單元が総合的に全一的に展開していく姿を児童のプロジェクトとして採上げ現實の生活課題を解決する中核的な場を構成する。即ち學習課題に出發し批判検討が加えられ、それを解決していくのである。しかも中心學習に社會科、理科的な面が強く出てゐるのは社會生活が餘りにも科學化され技術化されて、生活のどの面を眺めても科學的原理の應用を含んでゐないものはなく社會生活上の諸問題は科學的背景の理解なしに解決できないことが考えられ、しかもあらゆる人間活動はその自然的環境に依存して社會性と自然性とは同時に學習されなければならぬからである。しかしながら生活學習の流れは時に文章言語活動となり又は繪畫、造形活動となつたりして生活意識は次第に高まつていくものである。かくしてこれらの話す、かく、しらべる、考える、つづる、うたうという活動そのものが生活でありこれらを通じて生活は擴充され豊かになつていくのである。尙それらを深く立入つて取扱えば圖工、音樂、國語、算數という教科的學習となるがこの學習は中心學習の必要性に伴うものでこの二者が相俟ち一體となつて始めて眞の生活學習となるのである。これを本校では基礎學習といつてゐる。

2、基礎學習の性格

次に基礎學習としていかなる學習領域をもつかが問題となる。これを本校では中心學習の周邊に情操、知識及技能、健康の三領域に分ち配置してゐる。中心學習では身體的基盤の上に立つて理解も情操も技能も総合的に學習されるが、しいていへば課題を合理的に解決する科學的思考即ち理解が中心となる。これに對して情操の陶冶、技能の修練、身體の鍊磨は中心學習に於てもねられるがそれだけでは不十分である。情操の陶冶は民主社會に於ける人間形成の大切な一部であり、技能は中心學習に於てたえず活用されるがそうやすやすと身につけられない。身體の修練に於てはなおさらである。そこで基礎學習に於てねつた知識技能を中心に還元しこれを豊かに發展させ兒童の生活實踐力をより迫力のあるものにして教育目的を達したいと考へてゐる。しかしながら中心學習の展開に於て極く自然的な流れを重視すればする程基礎學習として發展するものが少くなる傾向がある。そこで兒童の生活經驗そのものを本質的に分析してこれだけはぜひ學習させたい。學習させなければならぬという最少限度の知識技能を教育目標に照して豫想し、又公立學校としての立場を考へ（便法として學習指導要領を分析する）基礎學習に二つの點を擧げてゐる。即ち

(1) 中心學習に直接動機づけられてとり上げて修練する基礎技能の面（教育細案参照）○印のついたもの

(2) 中心學習とは間接的なもので中心學習から發展しない知識技能であつても兒童の發達に應じて充分生活の基礎として役立つものを修練して中心學習に還元し用具として働かせるもの(教育細案参照——△印のついたもの)

三、生活指導

本校プランでは生活指導として「曆及行事、指導の着眼」の欄を設け社會的行事、學校行事、學年行事を掲げこれらを中心學習に挿入して兒童人格の發達をより大ならしめようと考へている。おもに生活指導(ガイダンス)の行われる場は特定の所や時に限定されるのではなく學校生活、校外生活、家庭生活等あらゆる時あらゆる場に於て行われるものでガイダンスはあくまで兒童の個々について現場に於て行われるものである。そして兒童各自の個性的特質を理解し記録し繼續的に行う必要がある。即ち知能的、身體的、情緒的、社會性等のすべてを含む全體として兒童人格の向上發展を目ざすものでなければならぬ。コア學習をガイダンスの立場からなるときあくまで兒童の素質、能力の個人差に應じて學習をすすめ、學習能率を高めることに重點をおくあまり身體的影響、情緒的効果の指導をおろそかにしてはならないのである。現に三年生でありながら一年生程度の知的水準しかもつていない兒童でも他の面で情緒的に或は身體的に或は社會的に他の兒童よりすぐれた點を見受けるのである。この點では他人より優れているという自己安定感はその兒童に希望と光明とを與え明るい性格へと進むものである。だから教師は兒童個々の行動を理解する眼と態度とを持たなければならぬ。朝遅刻する兒童を懲戒する前になぜ遅刻するか。體質は？家庭環境は？通學距離はどうかと考へねばならぬ。人間行動は個體と環境との函數關係にあるといわれるのもこの點である。本校に於ては學年はじめに全校一齊の家庭訪問をなし家庭や生活環境調査をして家庭調査簿をつくり又月一回の保護者參觀日、毎月一回體重測定を繼續的に行い家庭と健康状態について連絡をとり自治方面では學級自治會、學年自治會、全校自治會とそれぞれ委員制をとり、兒童の社會性の陶冶にあたつてゐる。特に一・二・三學年においては知能的に身體的に情緒的に社會性に何れかの點での遅進兒を養護學級として特設し指導を與へてゐるのもこの觀點によるのである。尙このガイダンスについては幾多の研究問題があるが今後の研究にゆずりたい。

四、週計劃について

本校では毎週金曜日に學年打合せ會を開き單元の學習計劃案にもとずき週案を作成してゐる。その週案によつて兒童と打合せをし各學級に即した具體案を計劃するのである。別項に示す週案はあくまで一應の規準であつて固定したものでなく、學年學級の特事情に應じて多少の變更がある。この案によつて日々の學習指導をし毎日の評價、反省を細密に記入していくのである。なお補正して實施したとき該當欄に(補)として記入する。又實施時間数を各教科的別に記入し單元學習の積算時として合計時数を實踐記録として残し次學年度の參考にする。尙本校が「けいこ」の時間を特設してゐるのは基礎學習のうちで特に反覆練習によつて速度と正確さを要求する計算の面と漢字語句文章の書寫力の面とを能率的に實施したいからである。

學 習 單 元 表

系 範 圍	列	學 年	身近な環境での生活		廣まる環境で	
			1	2	3	
			家庭 學校 近隣	町で私達を助けてくれる人	加古川町の生活	加古
			興 味 と 經 験 の 傾 向	家庭を中心とする郷土社會の生活	自然環境と人間	
			社會意識	社會生活は著しくない	社會生活はやや著	
學習傾向	自己中心的で論理的に物を考えない 行動的性質が著しい 情緒的性質が著しい		自己中心的傾向を離 行動的性質はなお著 情緒的傾向はなお著			
目標 1 健康で耐久力強く道徳的 生活に勝れた人 2 文化を理解する豊かな感情 をもつた人 3 物事を科學的合理的に處理 實踐出来る人 4 責任感が強く民主的な生活 の出来る人 5 眼界が廣く識見に富む人	社會機能	具 體 的 目 標				
	生 産	<ul style="list-style-type: none"> ○我國の現状と加古川の地域性に鑑み、生産加工の重要性を理解する ○現下の困難を克服する道は産業の復興と貿易再開にあることを理解する ○勤勞の眞義を理解し進んで生産に參與する態度を養う ○機械工業發明發見が生産増強に寄與することを理解する ○生産機能の施設を理解する 	花 あ つ め	おひやくしょうさん	町 の 工 場	加 業
	通 信 運 輸	<ul style="list-style-type: none"> ○加古川が陸上交通の要地であることを認識する ○交通の發達が社會文化を發展させることを理解する ○通信運輸の發達を理解し將來の改善を圖る能力を養う ○通信運輸の機能の機關について理解する ○通信の社會的重要性を認識する 	のりものごっこ	ゆうびんやさん	加 古 川 驛	の
	消 費	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を合理的に營み經濟生活の安定を計る能力を養う ○經濟生活に於ける統制の意義を理解して社會の秩序を維持する能力を養う ○消費機能の機關を理解する ○金錢、物品を正しく使用する態度を養う 	た べ も の	お 店	市 場	配
	保 健	<ul style="list-style-type: none"> ○身體を積極的に鍛錬し、健康増進の知識と能力を養う ○公衆衛生の重要性を理解する ○加古川町の衛生状態を認識し、傳染病に對する豫防の理解を深める ○スポーツの眞義を理解して、これを楽しむ生活態度を養う ○保健の機能の機關について理解する 	きれいなからだ	おいしやさん	町のえいせい	身
	保 全	<ul style="list-style-type: none"> ○社會生活に秩序維持の必要なことを理解し遵法の態度を養う ○道路通行、乗物の危險防止についての理解と態度を養う ○水害を防ぐための種々の施設について理解する ○火災が社會生活に及ぼす影響を理解し防火に對する態度を養う ○社會に於ける防犯思想の必要性を理解する ○保全の機能の機關について理解する 	きんじよの人たち	おまわりさん	消 防 署	署
	教 養 娛 樂	<ul style="list-style-type: none"> ○文化を理解し知性豊かな生活を營む態度を養う ○新聞、雑誌、映畫、ラジオ等人間教養上の重要な施設について理解する ○娛樂場における社會道徳の昂揚を圖る ○餘暇を利用する習慣態度を養う 	いろいろな遊び 學 校	おともだち	學 藝 會	會
	政 治	<ul style="list-style-type: none"> ○會議の知識や態度を理解する ○民主主義政治の意義を理解し自主的に參與する態度を養う ○政治機關の機能について理解する ○各種議會の機能を理解する 		町 長 さ ん	町 役 場	場

列	學 年	身近な環境での生活		廣まる環境での生活		私達の縣と國での生活		
		1	2	3	4	5	6	
	強調すべき生活の領域	家庭 學校 近隣	町で私達を助けてくれる人	加古川町の生活	加古郡とその周邊	兵庫縣とその周邊	日本と世界	
	興味と経験の傾向	家庭を中心とする郷土社會の生活		自然環境と人間の生活		文化の發達と人間の生活		
	社會意識	社會生活は著しくない		社會生活はやや著しくなる		集團生活が高まり、社會關係とその義務について理解する		
學習傾向	自己中心的で論理的に物を考えない 行動的性質が著しい 情緒的性質が著しい		自己中心的傾向を離れはじめる 行動的性質はなお著しい 情緒的傾向はなお著しい		自己中心的傾向を脱する 論理的な思考力や概括力ができてくる			
具 體 的 目 標								
○我國の現状と加古川の地域性に鑑み、生産加工の重要性を理解する ○現下の困難を克服する道は産業の復興と貿易再開にあることを理解する ○勤勞の眞義を理解し進んで生産に參與する態度を養う ○機械工業發明發見が生産増強に寄與することを理解する ○生産機能の施設を理解する	花 あ つ め	おひやくしょうさん	町 の 工 場	加古・印南の農業と工業	いろいろな工場	日本の工業		
○加古川が陸上交通の要地であることを認識する ○交通の發達が社會文化を發展させることを理解する ○通信運輸の發達を理解し將來の改善を圖る能力を養う ○通信運輸の機能の機關について理解する ○通信の社會的重要性を認識する	のりものごっこ	ゆうびんやさん	加 古 川 驛	のりもの道	郵 便 局	日本の旅 卒業旅行		
○生活を合理的に營み經濟生活の安定を計る能力を養う ○經濟生活に於ける統制の意義を理解して社會の秩序を維持する能力を養う ○消費機能の機關を理解する ○金銭、物品を正しく使用する態度を養う	た べ も の	お 店	市 場	配 給 所	私達の食糧	電氣と水道		
○身體を積極的に鍛錬し、健康増進の知識と能力を養う ○公衆衛生の重要性を理解する ○加古川町の衛生状態を認識し、傳染病に對する豫防の理解を深める ○スポーツの眞義を理解して、これを楽しむ生活態度を養う ○保健の機能の機關について理解する	きれいなからだ	おいしやさん	町のえいせい	身 體 檢 査	病 院	運 動 會		
○社會生活に秩序維持の必要なことを理解し遵法の態度を養う ○道路通行、乗物の危險防止についての理解と態度を養う ○水害を防ぐための種々の施設について理解する ○火災が社會生活に及ぼす影響を理解し防火に對する態度を養う ○社會に於ける防犯思想の必要性を理解する ○保全の機能の機關について理解する	きんじよの人たち	おまわりさん	消 防 署	警 察 署	水害と堤防	裁 判 所		
○文化を理解し知性豊かな生活を營む態度を養う ○新聞、雑誌、映畫、ラジオ等人間教養上の重要な施設について理解する ○娛樂場における社會道徳の昂揚を圖る ○餘暇を利用する習慣態度を養う	いろいろな遊び 學 校	おともたち	學 藝 會	學 級 文 庫	新聞とラジオ	たのしい生活		
○會議の知識や態度を理解する ○民主主義政治の意義を理解し自主的に參與する態度を養う ○政治機關の機能について理解する ○各種議會の機能を理解する		町 長 さ ん	町 役 場	加印地方事務所	縣會と地方自治	國 會 と 政 府		

- 朝禮に参加する
 - ・ならび方のけいこをする
 - ・上級生の様子を見る
 - ・話のきき方教室への入り方をけいこする
- 教室を美しくする
 - ・紙くさり、おり紙で天井をかざる
 - ・繪をかいてはる
 - ・つくえ、こしかけ教具をせいとんする
- 記念樹を植える
 - ・記念樹の名を覚え植こみの手傳いをする
 - ・他學年の記念樹を見る
 - ・記念樹の世話と觀察を續ける
 - ・朝顔、豆の種まきをし世話と觀察を續ける
 - ・花の歌をうたう
- 持物調べをする
 - ・自分の使っている學用品をしらべる
 - ・持物の繪をかいてみる
 - ・持物の取扱について反省し實行する
 - ・お金を持つて来る時の心得につき話合ふ
 - ・忘れものしらべをして表に記入する
- 學校でよくらしをする
 - ・學校でのきまりを話合ふ
 - ・登下校の時刻を知り時計の見方をけいこする
 - ・正しい姿勢を考えやつてみる
 - ・學用品の使い方を工夫する
 - ・計數器やカードを使って遊ぶ
 - ・お家でのよくらしの話し合いをする
- 學校へのゆききに氣をつける
 - ・通學の道順について話合ふ
 - ・通學のゆき方、黄新のしかたを考える

○直線にそつてきる鉄の使ひ方、鉛筆、糊の使ひ方を覺える

△バックのぬり方を覺える

△「むすんでひらいて」を歌う

△五線の名前を覺える
ニ
ロ
ト
ホ

△「仲よしこみち」を歌う

△教一 八頁
「むすんでひらいて」
「かぞえまし
よう、うん
どうかい」
1から5ま
でのかき方
とかぞえ方

△教一 四頁
「みんない
いこ」
△、やの指導
鉛筆の持方
字の書き方

○教一 一五頁
「もちもの」

△教一 一五頁
「よみかき」

○教一 二七頁
「時計」
見方のけい
こをする

○教一 一七頁
「お道具し
らべ」
・名稱をつけ
てのかぞえ
方

△教一 一九頁
「かぞえま
しよら」
・名稱つけて
1から10ま
でのかぞえ
方

△リズムあそ
び
「むすんで
ひらいて」

△からかい鬼

△受渡し競争

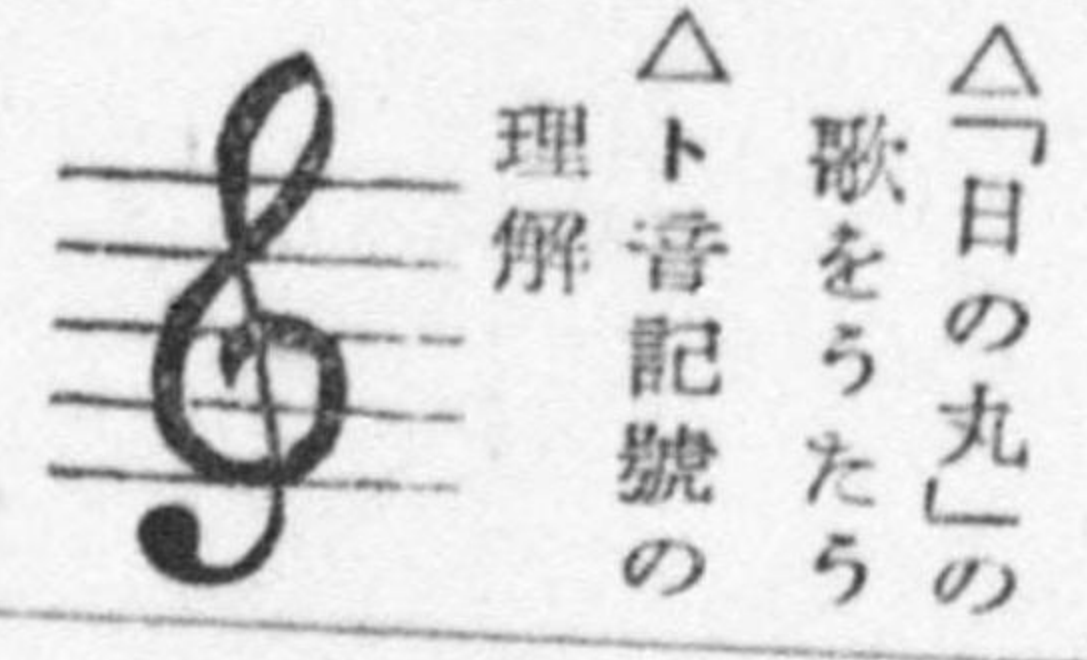
こみ	ミーデー	八十八夜	憲法記念日	子供の日 護齒日	立夏	貯金日
よく世話し觀察を續けるよう	苗代に種まきをする頃であることを知らせる	國のきまりのできた日であることを知らせる	どんな日であるかを理解させてよい生活をするよう指導する		暦の上では今日から夏であることを知らせる	

表現活動時間表		教科的数		効果判定	
実施	豫定	実施	豫定	実施	豫定
時	二五時	時	一二時	時	一二時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	〇時	時	一二時	時	一二時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二〇時	時	九時	時	九時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	一七時	時	一五時	時	一五時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	〇時	時	三時	時	三時
分	〇分	分	〇分	分	〇分

<ul style="list-style-type: none"> 自分の体のよい所、悪い所を考える 校醫の検診を受ける 虫歯、トラホーム、偏食について話合う 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生れた月日を知る 月別人数をしらべ表に記入する なにをするか相談してプログラムを作る けいこ演説をする おみやげを作る 反省する
<ul style="list-style-type: none"> 鯉のぼりを立てる 店屋へ鯉のぼりや武者人形を見に行く なぜするのかわけを考え家の事を話合う 鯉のぼりをつくる あやめのちぎり紙をつくる 繪をかき 歌をうたう 	<ul style="list-style-type: none"> 紙のちぎり方を覚える
<ul style="list-style-type: none"> △五線の間の名前を覚え 	<ul style="list-style-type: none"> よい子を歌う
<ul style="list-style-type: none"> △教 一六頁 「おはじきならべ」 ・方向、位置を知る △教 二〇頁 「色をぬりましよう」 ・10までのかぞえ方 △教 二二頁 「カードあそび」 ・数の系列 △教 二四頁 「どつちが多い」 ・数の大小の観念 	<ul style="list-style-type: none"> △教 一六頁 「おはじきならべ」 ・方向、位置を知る △教 二〇頁 「色をぬりましよう」 ・10までのかぞえ方 △教 二二頁 「カードあそび」 ・数の系列 △教 二四頁 「どつちが多い」 ・数の大小の観念
<ul style="list-style-type: none"> △棍棒移し 	<ul style="list-style-type: none"> 身体検査
<ul style="list-style-type: none"> 楽しい日 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参観日
	<ul style="list-style-type: none"> 部落競技會

<p>○摘み草についての経験発表 ・どんな花があつたか ・どこで取つたか ・誰と行つたか ○色々な花を見る ・見に行く場所の相談(学園、花屋等) ・見学 ・見学後の話合い ・色々な花の絵をかく ・ちようちよらの歌をうたう ○摘み草と名稱 ・野邊に行つて美しい花を摘む ○摘み取つた花で遊びをする ・どんな遊びをするか話合う ・教室を美しく飾る ・Eのトンネル、花たばを作る</p>		<p>目 標</p> <p>一、美しく咲いた草花をあつめ、教室や家に持ち歸つて、部屋を飾り、美的心情を培う 二、自然の恵みを感じると共に、一面に展開する田畑の作物は、数多くの人達の努力による事を理解させ、農業生産に對する認識をもたせる 三、摘草作業によつて、學校家庭に飼育する動物愛護への關心を深める 四、農園、花屋等を見學する事により、觀察注意力をねると共に、目的をもつて動作する態度を養う 五、自他の蒐集したものを比較して、各種の能力技術を會得させる 六、春秋二回にわかれて、はなあつめをし、季節に對する關心を深める</p>	<p>學 年</p> <p>一 單 元</p>
<p>○クレヨンを使い方になれさせる</p> <p>○二拍子のリズム感覺の理解 「ぶんぶん」のうた</p> <p>○教一 六頁 「なのはな」をよむ</p> <p>○教三、三頁 「かぞえましよう」 「ぬりましよう」 ・二〇までの數のかぞえ方 ○教三二頁 「なにかできるでしよう」</p>			<p>配 當</p> <p>四月 第二、三週 十一月 第一、三、四週</p> <p>中心學習 七六時間 基礎學習 四〇時間</p>
<p>中 心 學 習</p> <p>兒 童 の 活 動</p>	<p>基 礎 學 習</p> <p>圖 工 音 樂 文 學</p> <p>知 識 及 技 能</p> <p>家 庭 技 能</p> <p>體 育 健 康</p> <p>曆 及 行 事</p> <p>指 導 の 着 眼</p>	<p>學 習</p>	<p>は な あ つ め</p>

- いろんなものを飼うか話合(兎、青虫等)
 - どこから持つてくるか
 - どんな用意があるか
 - どんなにして飼うか
 - うさぎの歌をうたう
- 學園に花を植える
- どんな花を植えるか話合
 - 朝顔の種まきをする
 - 球根の栽培をする
 - 世話をしながら、観察する
 - はなの歌をうたう
- 學園の繼續観察をする
- 観察記録
 - 手入れ(灌水、施肥、害虫、驅除、支柱)
 - 熟した實の收獲
- 稻の栽培を繼續して観察する
- 苗代
 - 田植
 - 除草
 - 穂の出るのをみる
- 秋の野、學校園の觀察と花あつめをする
- 木の葉、草の色、野原の變化を繼續して觀察する
 - 花や草や木の實を集める、押花をする
 - 摘んだ花や實でま、こと遊びをする
 - 菊の花をつくる
- 季節だよりをつくる
- 植物や、動物や果物の名をあつめる
 - ぬりえをして切抜く
 - 表にはる
 - 果物かごをつくる



△「日の丸」の歌をうたう
△ト音記號の理解

● 二〇までの數系列

△教三五頁

「しかくをかきましよう」

● 10以上20までの數の合成

○教三七頁

「いくつありますか」

○教三一頁

「かぞえましよう」

● 二單位の數え方

○おてまつないでのダンスをする

△旗とり

△ジャンケン遊び

日 保護者參觀

楽しい日

お誕生會 (毎月二十五日)

天皇誕生日

天皇の誕生日であることを知らせる

文化の日

文化の發達についてお話をきく

稻刈り

農繁期のお手傳が出来る様にする

貯金日

△日月あそび

活動表	教科的數		効果判定
	實施	豫定	
三九時	時	二四時	<p>○季節の行事をしらべてえをかか</p> <p>○落葉あそびをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ●木の葉の色を繼續して觀察する ●木の葉を集める、數える、押葉をする ●うたのおけいこ(木の葉) ●木の葉をわける(形の似たもの、常緑樹と落葉樹) ●木の葉細工をする(花、動物、もよう) <p>○秋の野原をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●秋の野原を見に行く ●見て来たものを繪にかいて切りぬく ●みんなで略圖にはる ●砂箱に、協同して秋の野原をつくる <p>○稲の取り入れをみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●稲刈りから、臼すり迄の作業をみに行く ●お米が出来るまでを話し、えをかか ●農繁期の手傳の必要をしらせる(分に應じて家の仕事を手傳う) ●落穂拾いをする
〇分	時	〇分	
八時	時	二時	<p>○展開圖の見方</p>
〇分	時	〇分	
分	時	〇分	<p>○教三二二頁 「えにつき」</p> <p>○教四五頁 「まつばあそび」</p> <p>○教四六頁 「木の葉あそび」</p> <p>○教六七頁 「きののはあつめ」</p> <p>○一の倍數減法</p> <p>○教六六頁 「いろいろいたならべ」</p> <p>●形や配列を正しくつくる</p>
分	時	〇分	
時	時	〇分	<p>○興味を以て飼育の世話をしているかどうか(觀察)</p> <p>○栽培日記の記録のとり方(評定)</p> <p>○栽培日記の態度はどうか(觀察)</p> <p>○共同作業の態度はどうか(觀察)</p> <p>○摘み取った花の處理の方法(觀察)</p>
分	時	〇分	
時	時	〇分	<p>△轉廻</p>
分	時	〇分	
時	時	〇分	<p>遠足</p> <p>保護者參觀日</p> <p>體重測定</p> <p>勤勞感謝の日</p> <p>楽しい日</p> <p>麥蒔き</p>
分	時	〇分	
時	時	〇分	<p>勤勞に對して感謝の念を深める標語合をする</p>
分	時	〇分	

きれいなからだ

配當

自六月第一週
至七月第二週

中心學習 七六時間
基礎學習 三八時間

目標	
<p>一、衛生についての理解を深めその実践を指導する</p> <p>二、戸外で友達と仲よく運動する態度を養うと共に汚れた身体を清潔にする習慣をつける</p> <p>三、衣服を清潔にする關心を深め、衣衛生に関する知識と理解を収得させる</p> <p>四、洗顔、整はつ、用便等をすませ帰宅後のうがい手洗等の衛生的習慣をつける</p> <p>五、着衣を整美する態度能力を養う</p> <p>六、積極的に清掃する態度をしつける</p>	
<p>○病氣についての経験を發表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合う ・繪や文章にかいてみる ・病氣にならぬ爲にはどうしたらよいか考へる <p>○體をくらべ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・背の高い順に並んでみる ・體重くらべをする ・胸のまわりをはかつてくらべ合う ・あかがついていないか調べ合う <p>○體をきれいにしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あかのつき易いところを調べる ・體の洗い方のけいこをする ・想畫「お風呂」をかく ・つめをきる ・鼻汁をかむ 	
<p>圖工情</p> <p>音</p> <p>樂</p> <p>文</p> <p>學</p> <p>算</p> <p>知</p> <p>語</p> <p>識</p> <p>及</p> <p>技</p> <p>家</p> <p>庭</p> <p>能</p> <p>技</p> <p>能</p> <p>體</p> <p>健</p> <p>育</p> <p>康</p> <p>曆</p> <p>及</p> <p>行</p> <p>事</p> <p>指</p> <p>導</p> <p>の</p> <p>着</p> <p>眼</p>	<p>△教二二九頁 「手と足」 ・音を正しく すらすらと よむ ・漢字のけい こ 手、足：等</p> <p>△教 四九頁 「かぼちゃ はこび」 ・10までの加 法</p> <p>△川とび</p>

- 毎朝顔を洗つたり歯をみがいたりしていか話合ふ
 - 歯をみがくけいこをする
 - 毎日用便しているか話合ふ
 - 上手な用便の仕方を考える
 - うがいのはかたをけいこする
 - 頭はつを美しくする
 - れいすいまさつをする
- 以上の実践事項を表にしてけい續的に習慣態度を高める

○服そを正しくしよう

- よごれた衣類、ほころびがないか調べる
- 衣服の清潔について話合ふ
- 着物の上手な着方をけいこする
- ハンカチや紙を持つているかしらべる
- ハンカチを洗うけいこをする
- 「せんたく」あひるの母さん」の歌をうたいダンスをする

○姿勢を正しくしよう

- 字をかく時、本を讀む時、話を聞く時、發表する時等
- 食事をする時
- 歩く時
- ねる時

○元氣に遊ぼう

- 軽いきちんとした服そをうでする
- 汗をふく
- シヤンがぬれたらぼしてゆつくり休む
- 遊んだ繪を畫く

○發想について工夫し

- 書き方の長さと
- 書を理解する
- 棒が上や下を向いてい
- ることにつ
- いてしらべ

△教一四〇頁
「山のつづじ」をよむ

○教一二二頁
「ゆらぎ」をよむ

△教 六三頁
「いろいなるもんだい」10までの加法

貯金日	入梅	麥刈り	保護者參觀	夏 至	楽しい日	體重測定
時の記念日	梅雨の衛生について	取入れのお手傳 落穂拾い	一年中で一番晝の長い日であることを知ると共に曆についての關心を深める	表情のしかたを工夫する	△メジシンボール	△追かけおに

<p>學年 一 單元 た べ も の の</p>		<p>配當 自七月 第三週 至九月 第四週 中心學習 六五時間 基礎學習 三〇時間</p>
<p>目標</p> <p>一、たべものは多くの人達の努力によることを理解し、感謝していただく態度と習慣を養う 二、食物と身體の關係を理解して、より強い身體をつくるよう實踐能力をつける 三、食事にさいして衛生的良習慣をつける 四、家庭における諸種の食物や調理に關する理解を深める 五、いろいろな農作物のさいばい狀況を見させることにより觀察の注意力を養い自分で作ろうとする氣持を起させる 六、自分でできることは自分でする態度を養う</p>		
<p>兒童の活動</p> <p>○食物についての經驗を話合う ・おなかがすいたこと、食べすぎて病氣になつたことを話合う ・すきなもの、きらいな物について話合う ・主食と副食物について話合う ○みるくをいただく ・みるくについて話合う ・用意するもの、食事の作法について話合う ・たのしくみるくをいただく ○調理のようすを見學する ・みるくができるまでをよく見る ・家で食事ができるまでをよく見る ・世話になつている人について話合う ・すいじばのようすを繪にかく</p>	<p>生活基礎學習</p> <p>圖工音學文操學 言語知識及數量形技 家庭技能 體育健康</p>	<p>曆及行事 指導の着眼</p> <p>日 保護者參觀 體重測定 楽しい日</p>
<p>○思つたこと 見たことを 順序正しく 話す △教 四七頁 「水遊び」 かさくらべ</p>		

- 食物の種類についてしらべる
 - ・こくもつ、野菜、果物、肉類等に分ける
 - ・各季節の野菜、果物をしらべる
 - ・郷土の産物をしらべる
 - ・生のもつと、加工したものについて話合
- やお屋ごつこをする
 - ・市場を見学する
 - ・分團毎に店をつくり、役をきめる
 - ・粘土や紙で、野菜、果物、菓子をつくる
 - ・ねだんしらべをし、お金をつくる
 - ・店を飾り、買物をする
 - ・交代してする
 - ・やお屋の繪や、お話を書く
- 食物はどこから、どうして運ばれるか
 - ・米、野菜、果物、魚等について話をきく
 - ・市場、配給所を見学する
 - ・「りんご」の旅の紙芝居をつくる
- 農作物の栽培のようすを見る
 - ・学校や附近の田畑の作物を何度も見る
 - ・大根を作り、よく見てつきをかく
 - ・お百姓さん、いもほりの歌をうたい、ダンスをする
- 健康と食物について話合ら
 - ・食物の大切なことについて、話をきく
 - ・「よくかむ」ことについて話合ら
 - ・すき、きらいをいうと悪いわけをきく
 - ・食前、食事中、食後の注意事項について話合ら
 - ・食物とむし歯についての話をきく
 - ・むし歯豫防の紙芝居を見る

○粘土のねり方
 ・形の作り方
 ・竹べらの使い方をけいこする

○「いもほり」
 「お百姓さん」の歌のけいこをする
 ・一うちのやすみ
 ・かきかたのけいこ

△繪日記のき方のけいこをする	○食物に關する言葉あつめをする △教 一八頁 「ゆらやけごやけ」をよむ	△教 四二頁 (風車)	○けいさんのけいこ	△教 三九頁 「わけましよう」 ・二等分、三等分する	△教 三一頁 「ひとつのことばから」をよむ	○廣さくらべをする	△直線リレー	△まわりつこ	△サークルリレー	體重測定
式 一學期終業	式 二學期始業	二百十日 作品展 貯金日	月見	秋分の日	秋分の日	秋分の日	式	式	式	式
一學期の學習態度を反省させる	大風がよく吹き、稲を荒らす頃であることをしらせる	美しい月を見て行事を楽しむ	先祖をまつる、晝夜等分、日出、日入の方向についてしらせる	晝夜等分、日出、日入の方向についてしらせる	晝夜等分、日出、日入の方向についてしらせる	晝夜等分、日出、日入の方向についてしらせる				

いろしなあそび

目標

- 一、用具や場所を準備することによつて、しゆり集と計畫性を養い、又振り役遊びの人員配置も相談して決定する等、協調心と社交性の伸長を圖る
- 二、用具の必要性から起る製作に對する工夫と技術の向上をねらう
- 三、友達と仲よく遊ぶ態度や、自ら進んで友達と交際する様しつける
- 四、種々な遊び方を直接指導して社會生活になれさせる

配當

十月 第一、二、三、四週
十二月 第一、三週

中心學習 九〇時間
基礎學習 四二時間

<p>○面白いことをして遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この頃よくやつている遊びについて話合 ・どんなにして遊ぶのかということを説明し合う ・楽しく遊ぶ ・話題に上つた遊びを發表者を中心として順次行動化していく ・(かくれんぼ・けんけん・鬼ごっこ等) ・どんな遊びが健康的であるかを考える <p>○砂遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びについて、いろ／＼話し合う ・砂でどんなものを作つて遊ぼうか ・川の砂山へ田かけて遊ぶ ・砂遊びの歌を歌う <p>○鬼ごっこをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなにしたら面白く出来るかを相談する 	<p>兒童の活動</p>	<p>中心學習</p>	<p>圖工—音—樂—文—學—</p>	<p>基礎學</p>	<p>習</p>	<p>習</p>	<p>體健—育康—</p>	<p>曆及行事</p>	<p>指導の着眼</p>
	<p>○みんなによくわかるように、くわしく話す</p> <p>△教 八六頁 「こよみ」</p> <p>△かけっこ</p> <p>○たゞ逃げるだけでなく巧緻性を養</p> <p>貯金日</p>								

○子ふやし鬼

お月見

○最も有効な球の投げ方を工夫する

○紅白球並べ

○運動後の休養の仕方

運動會
秋祭り

食べ過ぎて腹をこわさぬようにする

○すみからすみまで、きちんと色をぬる
○曲線に沿つて紙をきれいにきるけいこ

△「お月さん」の歌をうたう

○2/4は二拍子のしるしであること
と
♪一うち半であること
を把握する
の歌い方
○「まりなげ」の歌をうたう

○教 二二頁
「かくれんぼ」をよむ

○教 五九頁
「さいころ」

○教 六〇頁
「カード遊び」

○教 九頁
「たまいれ」をよむ

○教 六二頁
「場所かえ競争」
数の構成

○積極的に發表する態度をつくる

○教 四三頁
「球入れ遊び」
・10の補數
・基數の連續した加法

- 鬼の面を作る
- 楽しく遊ぶ
- 繪にかいてみる
- かくれんぼをする
 - どんなにしたら面白く出来るかを相談する
 - かくれるのによい場所をさがす
 - 楽しく遊ぶ
 - かくれんぼの歌をうたう
- 球入れをする
 - どうしてするかについて話合ふ
 - どんな用意があるかを考える
 - (かご、紅白の球、赤組、白組がよくわかるように鉢巻をすること等)
 - どんなことに氣をつけたらきまりよく、面白く出来るかを考える
 - 楽しく遊ぶ
 - 勝負を調べる
 - きちんと後始末をする
 - 繪にかいてみる
- 個人單位の球入れ遊びをする
 - 違つた球入れ遊びが出来ないか考える
 - 一人づつで競争する方法を考える
 - 何回もして遊ぶ
 - 二人以上で組を作つて遊ぶ
 - 間違わぬように記録する方法を考える
- 運動會
 - 運動會についての希望を話し合ふ
 - 立派な運動會が出来るように工夫する
 - 元氣にやらねばならぬことを考える
 - きまりを守らねばならぬことを考える

表現活動時間表		教科的数		効果判定	
実施	豫定	実施	豫定	観察	評定
時	一八時	時	三四時	國語的	社會的
分	〇分	分	〇分	算數的	理科的
時	五時	時	一〇時	音樂的	圖畫工作的
分	〇分	分	〇分	家庭的	體育的
時	一五時	時	一三時	生活指導	
分	〇分	分	〇分		
時	四〇時	時	二四時		
分	〇分	分	〇分		

<ul style="list-style-type: none"> ○一つの言葉から思いついたことばを言い合ふ ○五十音の歌をうたう ○お正月を迎える ○もう幾つ寝たらお正月かを調べる ○お正月の希望を話合ふ ○冬休み中のくらし方について話し合ふ ○冬休み中のこよみを作る ○お正月の遊び ○面白かつた遊びについて話合ふ ○生活記録の書き方について調べ合ふ ○たこあげ、はねつき、かるた、すごろく等をして遊ぶ ○かるた取りをして遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験発表を順序よく明瞭に行うかどうか(観察) ○遊びに對しての計畫性はどうか(観察) ○想像に於ける表現能力(評定) ○友達と仲よく遊ぶか(観察) ○家庭に於ける遊びの態度はどうか(テスト) ○遊んだ後の後始末はどうか(観察)
<ul style="list-style-type: none"> ○「たこのうた」の歌をうたう 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の繪をくわしく説明するけいこ ○教二 四頁 「あがつくことば」をよむ ○教三一 六頁 「ことばあそび」をよむ ○伸々と発表するけいこ
<ul style="list-style-type: none"> 保護者參觀日 楽しい日 體重測定 保護者參觀日 體重測定 冬至 終業式 始業式 書初め展覽會 貯金日 	<ul style="list-style-type: none"> 畫が一番短かい日であることを知らせ寒さに向う時の注意をする どんなところがよいかよくみる

學年 一 單元 きんじよの人たち	配當 十二月 第一、二週 三月 第一、二、三週 中心學習 七七時間 基礎學習 三九時間	目標 一、近隣協力して安全生活を営むことを理解する 二、近隣の人たあの恩恵に對する報恩、感謝の積極的態度を養う 三、上級生の名前を知り共に仲よく暮そうとする社交性に培う 四、一年生として近所の人達の爲になる仕事を探させて近隣相互扶助の良風をしつける 五、近所の人達の職業や生活状態を觀察させておのづから社會の廣さと動きをさとらせる					
		中心學 兒童の活動	生活 基礎學 習				
○おつかいごつこをする ・お隣へおつかいに行つたことについて話合ふ ・おつかいの種類をしらべる ・あいさつのおけいこをする ・おつかいに行つたお話をかく ・想畫をかく ・おつかいごつこをする ・「おつかい」のうたをうたい遊ぎをする ○配給ごつこをする ・配給品にはどんなものがあるかしらべる ・配給品を賣つている店をしらべる ・配給品をどんなにして受取つているかを	圖工 音樂 文學	△教 三五頁 「おむかえ」 のうたい方 をおぼえる	言語 知識 算及 技 家庭 技能	○教 二四頁 「あいさつ」 をよむ ・あいさつの 仕方 △教 八〇頁 「畫用紙」 「鉛筆」 ・(繰上り加 法) △教 八二頁 「いろいろな もんだい」 △教 七六頁 「せいじき」 ・繰上りのあ る加法 (20迄)	體健 育康	曆及行事 防火日 貯金日 誓文拂	指導の着眼 火災豫防につ て話す わだづかいをせ んよように指導す る

- ・砂場に模型をこしらえる
- ・配給ごつこをする

○班(舊隣保)の人数調べをする

- ・男女別に各戸の人数を調べる
- ・年齢前、学生、大人に分けて調べる
- ・近所のお友だちの名前をしらべる
- ・表をつくる
- ・人数に応じて適正な配給ごつこをする

○近所の人々のお仕事しらべをする

- ・残り深く立入らない程度に各自で調査をまとめる
- ・屋敷をしらべる
- ・夫々の種類の職業をもつ家庭の生活状況を行動化する
- ・はたらいでいる人の繪をかく

○近所のお友達との遊び

- ・誰と仲よく遊ぶか話合ッ
- ・どんなことをして遊ぶかを話合ッ
- ・遊びの種類をしらべる
- ・かげえ、折紙をして遊ぶ
- ・其の他いろいろの遊びをする
- ・あそびの繪をかく

○自分たちの世話をしてくれる上級生の人々をしらべる

- ・分團の役員の名をおぼえる
- ・近くで世話になる上級生は誰か話し合ッ

△教 五四頁
「すずめのおやど」
♪ は一うち
にうたうこ
と長さを正
しくうたう

△教 五七頁
「こうもりがさ」
・生は四び
よろしのし
るしをおぼ
える

△教 二七頁
「人のかお」
をよむ
△教 一〇〇頁
「にいさんのひきざん」

△教 一〇五頁
「おせつく」
・形

△教 三四頁
「かげえ」を
よむ
△教 七三頁
「かげ」
・形

△じやんけん
おに

△動物遊び
道路愛護

ひなまつり

貯金日
學藝會

三月三日
ひなまつりをす
る、おひな様の
うたとおゆうぎ
する

教科的 時間	効果判定		国語的	社会的	算数的	理科的	音楽的	圖畫工作的	家庭的	體育的	生活指導
	実施	予定									
32分	32分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
18分	18分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
16分	16分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
9分	9分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
11分	11分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
17分	17分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
13分	13分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
15分	15分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分
3分	3分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分	〇分

効果判定

- 配給品にはどんなものがあるか(テスト)
- 近所の人たちと仲よくしているか(観察)
- 調査統計的なことに趣味をもっているか(観察)
- 上級生のいいつけをよくきいているか(観察)
- 學級當番として責任を果そうとしているかどうか(観察)

○正しい登校の仕方をおぼえる
 ・上級生にお禮を言うおけいこをする
 ○私達も當番をきめて學校のくらしをよくしよう
 ・教室をきれいにしよう
 ・どんな役をきめたらよいか話合う
 ・どんな風に世話をしたらよいか話合う
 ・役員をこしらえてやつてみる
 ・役員を交替してやる
 ○新入生の世話をする
 ・自分たちの近くで新入生は誰かしらべる
 ・自分達の入學當時を思い出し話合う
 ・思い出の文や繪をかき
 ・世話をしあげることについて話合う
 ・お世話をする

△六〇頁
 「こなひき」
 34は三び
 ようし
 24ひよ
 44のち
 44のち
 がいをよく
 おぼえる
 は二うち
 の長さかき
 かのけい
 こをする

△教三五頁
 「ゆめとつ
 くえ」をよ
 む
 △教一〇七頁
 いろいろな
 もんだい

體重測定
 遠足
 春分の日
 卒業式
 修業式
 國旗を出す
 先祖をまつる
 晝夜の長さが同
 じである、春秋
 二回あること
 上級生をおくる
 二年生に進級す
 る

配當
自一月第二週
至二月第四週
中心學習 七三時間
基礎學習 三五時間

目標
一、たのしい遊びをしながらのりものに對する理解を深め生活を豊富にすると共にそれ等に對するよりよき生活を實踐する態度を養う
二、友達と仲よく遊ぶ態度を養う
三、のりものに對する觀察力を養う
四、交通安全の生活を實踐しその能力や生活態度を養う
五、のりものごつこに關する各種の表現能力を養う

兒童の活動 ○のりものを利用した經驗の表現 ・どんなものに乗つてどこへ何しにいつたか話合 ・どんな人がどんなにして乗つていたか話合 ・どんなものに乗せていたか見たことについて發表する ・乗物の種類について經驗發表 「汽車」「電車」「荷馬車」のうたをうた いダンスをする ○いろいろな乗物の模型を集める ・何の力で走るか ・速さしらべをする ・積木や箱等いろいろな乗物を作つて見る ・いろいろな乗物の繪を畫いたり紙、きびがら、ねん土等で模型をつくる ・乗物の繪本を集めて見たり讀んだりする ・「乗物かるた遊び」をする ○神姫ベスの見學をする	生活 圖工 音 操 學	基礎 學 習	知識 及 技 術 習	家庭 技能 習	健康 育	曆及行事 指導の着眼	○教 「荷馬車」のうたをうた ・三拍子の長さをおぼえる ・正しい發音をする ・口形練習をする	△漢字の筆順書取練習 車、聲、上、下、耳、休、長、走等	△促音の使用練習 はっしやばっば等	△教 九二頁 「かくれんぼ」 ・二位數から基數を引く計算	△ねことねずみ	左義長 成人の日	成人の日の意義を知りよい子になる様心掛ける
							○きびがらの切り方つなぎ方をけいこする	△教 九二頁 「かくれんぼ」 ・二位數から基數を引く計算	△ねことねずみ	左義長 成人の日	成人の日の意義を知りよい子になる様心掛ける		

- 駅前停留所ではどんな人々いてどんな仕事をしている
 - 乗降客の様子をしらべ
 - バスの賃金をしらべる
 - バスの行先と方角をしらべる
 - 西本町の車庫を見る
 - 驛前から車庫までバスに乗って見て乗降を實際にけいこする
 - 西本町の修理場を見る
 - 神姫バスの行先を地圖にかいてみる
 - 待合所の繪を畫く
- 自動車ごつこをする
- 必要な道具の準備をする
 - 場所をきめる
 - 賃金表をつくる
 - 人の配置をきめて實際にやつてみる
 - 自動車ごつこのうたをうたう
- 加古川驛の見學をする
- 自動車の待合所と驛の待合所とはどこがちがうか
 - 係の人々の様子はどうか
 - 多くの乗降客の様子を観察する
 - 神戸、姫路間の汽車賃をしらべると共に方角を知る
 - 驛の繪をかく
 - 加古川驛の様子を共同で砂場に作る
 - 教一 四三頁「お月さんのくに」をよみ劇化する
- 汽車ごつこをする
- 必要な道具の準備をする(切符、お金等)
 - 賃金表を作る
 - 場所の計劃をする
 - 運轉手、車掌、驛員等をきめる
 - 役を交代して何回もやつてみる

○参
「汽車のうた」をうたいのうたを八方をお

△教二
「おはなし」を劇化する

△助詞の使用
練習
……へ
……を
……は等

△教二「おはなし」をよむ

△教 九五頁
「計算のおけいこ」
・二位數から基數を引いて基數になる場合の練習

△教 九八頁
「せいせん、うめ」
・二位數から基數を引いて基數の残る場合

△ジャンケン
人取り遊び

保護者參觀日	節分、立春	豆まきの行事を楽しみ曆や行事に對する關心を深める
體重測定	貯金日	
楽しい日		
保護者參觀日		
體重測定		
楽しい日		

表現活動時間表		教科的数		効果判定	
実施	豫定	実施	豫定	実施	豫定
時	一五時	時	二六時	時	〇分
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	八時	時	一六時	時	〇分
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	一五時	時	一六時	時	〇分
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	三五時	時	一三時	時	〇分
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時		時	五時	時	〇分
分		分	〇分	分	〇分

効果判定

- 乗物に関する発表に興味を持つか(観察)
- 交通安全、危険防止にとめる態度(観察)
- 想像に於ける表現能力はどうか(評定)
- 汽車ごつこを友達と楽しんでするか(観察)
- 乗物についての種類(テスト)

- 汽車は何を選んでるか(観察)
- 家庭に於ける遊びの態度はどうか(テスト)
- 機械や道具に對して興味をもっているかどうか(観察)

- 交通道徳の實踐をはかる
- 交通安全の話をきく
- 遊ぶ場所について考える
- 汽車バスの乗り降り
- 車内の態度の實踐
- 踏切の通行
- 国道、十字路の横斷
- 登、下校の通行
- 繁華街の通行
- 交通妨害について考える
- 町の辻の繪をかく

「春をむかえに」をよみ劇化する

「山びこ」をよむ

△道の歩き方

學年		二		
單元		おごもだち		
配當		自四月第一週 至四月第四週 中心學習 四一時間 基礎學習 二五時間		
<p>目標</p> <p>一、お友達と仲よく遊びお互いに扶け合う生活の態度を養う</p> <p>二、掃除の分擔を定めたり教室整備の方法を工夫したりして實際的生活の諸能力を得させると共に協同社會生活を營む上に必要な態度を養う</p> <p>三、遠足の楽しさの中に大勢の友達と仲よく遊ぶ社會的的態度を養う</p> <p>四、お客ごっこをする事によつて自他の正しい禮儀を理解させる</p> <p>五、係を選出してその方法を理解させると共に學級生活の向上に積極的に參加する態度を養う</p>				
<p>中心學</p> <p>兒童の活動</p> <p>○おともだちの話をしをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲よしのおともだちの話をしをする ・おともだちの名前と呼び方 ・體のよわいおともだち ・新しいおともだち ・仲よく出來た時、出來なかつた時 ・感心なおともだちの話 ・「仲よしこよし」の歌を歌う <p>○お掃除をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お掃除の仕方の相談をする ・分擔場所をきめる ・分擔圖をつくる ・用具の取扱 	<p>生活</p> <p>圖工情</p> <p>音楽</p> <p>○教二 「シーソー」 リズムのけいこ</p> <p>女操</p> <p>學</p> <p>○教三 「五人の子供」 長文をよむ けいここと鑑賞</p>	<p>基礎學</p> <p>習</p> <p>知識及技能</p> <p>○教二、四頁 「時計」 時計の見方 一日の生活 豫定表をつくる</p> <p>家庭技能</p> <p>體健</p> <p>育康</p> <p>○遊戯 し ○仲よしこよし</p>	<p>曆及行事</p> <p>始業式 入學式 道路愛護</p> <p>貯金日</p> <p>花まつり</p> <p>昔の行事にしたしませる</p>	<p>指導の着眼</p>

・お部屋を整頓する

○遠足をする

- ・どんなものを用意すればよいかを話し合
- ・どんなことに気をつけるかをきめる
- ・きけんな所をいらない
- ・お便所へ行くときもつけて行く
- ・いろ／＼な係をきめる
- ・係の役目を考える
- ・二年生らしい遠足の仕方をきめる
- ・服装けんさをする
- ・食事の仕方、後始末の仕方について話し合
- ・実践する
- ・花つみをする
- ・「遠足」のうたを歌う

○遠足についての反省をする

- ・悪いと思つたこと、困つたことを話す
- ・嬉しかつたことを話す
- ・遠足の繪をかく

○お客様ごつこをする

- ・計劃をたてる
- ・分團毎に家をつくる
- ・部屋の飾りつけをする
- ・もてなし方を考える
- ・ごちそうを準備する
- ・おまねきの手紙をかく
- ・返事を出す
- ・お客になつて行く
- ・挨拶をかわす

○写生

- ・お友達の顔
- ・りんかく
- ・つりあい
- ・を考えてか

○参

- ・「元氣なか
- ・らだ」を歌
- ・う
- ・讀譜
- ・音名視唱の
- ・けいこ

△教四

- ・「四季」
- ・すらくと
- ・よむ

○教二 八頁

- ・「いろいろ
- ・なもんだ
- ・い」
- ・繰上る加法
- ・減法のけい
- ・こ

△團體的行動

- ・集合
- ・歩行
- ・正しい歩行
- ・の實踐

遠足

團體的行動を規律正しく實踐させる
お互に扶け合う心を養う

○よい子の一日を實踐する

- ・早寝、早起
- ・歯をみがく
- ・食事のしかた
- ・日光浴
- ・遊び方の工夫
- ・外出先から歸つたら手を洗いうがいをする
- ・規律正しい生活をする
- △風邪、腹痛の簡単な手當を知る

保護者參觀日

たのしい日

教科的 時間數		實施		國語		社會的		算數的		理科的		音樂的		圖畫工作的		家庭的		體育的		生活指導	
時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分	時	分
		一三時	〇分	一七時	〇分	一一時	〇分	七時	〇分	七時	〇分	七時	〇分	七時	〇分	四時	〇分	五時	〇分		
六時	〇分																				
九時	〇分																				
八時	〇分																				

効果判定

- 明瞭に發表する態度(觀察)
- 友達同志仲よくするか(觀察)
- 友達と協力して物事をなす態度はどうか(觀察)
- よい遊びを喜ぶ態度はどうか(觀察)
- 時計を見る能力はどうか(テスト)

- 各種の表現能力(評定)
- 教室を美しくするために裝飾を工夫する態度はどうか(觀察)

- 仲間クラブをつくる
- どんな係をつくるかを考える
- どうしてきめるか
- 選挙の心がけについて考える
- 選挙をする
- 係をきめる
- 仲間クラブの一覽表をつくる
- 「みんな仲よし」のうたを歌う

- 想像
- お友達との遊び
- 色の調和を考へる

- 言葉を自由に使つてお友達によくわかつてもらう
- 朝夕のあいさつ
- 對話のおけいこ

- △とび箱
- △圓形リレー
- △天皇誕生日身體検査

天皇誕生日であることを知らず

配當
自五月第一週
至六月第三週
中心學習 九二時間
基礎學習 五五時間

目標
一、生産された物品が如何にして消費者の手に入るかを調べ消費の機能を果す諸施設に對する簡單な理解を得させる
二、商店を見學させ、物品が如何にして消費者にとどくかを調べる
三、お店ごつこを構成させ、その間に構成力、創造力、鑑賞力及び表現力を養う
四、上手な買物の仕方を考え、金錢、物品を正しく使用する能力を得させる

中心學 習	兒童の活動	<p>○買物に行つた經驗の發表をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 何をよく買ひに行くか お店の様子や賣つてゐるもの お店の人はどんな人か どんな人が買物に行つてゐるか どれ位買つてゐるか <p>○加吉川町にはどんな店があるかしらべる</p> <ul style="list-style-type: none"> クラスの人でお店をしてゐる人数をしらべ店屋別の表をつくる 自分の近所の店屋をしらべる お店を分類する たべものを賣る店 きるものを賣る店 たてものの材料を賣る店 學校の用具を賣る店 日用品を賣る店 雜貨物を賣る店 其の他の店
	圖工	
基礎學 習	音樂	<p>△教二</p> <ul style="list-style-type: none"> 「石やさん」 スタツカツ トの歌い方
	文	
學 習	言語	<p>○話の筋がよく通るよう言葉をはつきりと</p> <p>○お友達の話をよくきく</p>
	算數	<p>○教三一九頁</p> <p>「あき子さんの工夫」</p> <p>グラフの初步的な指導</p>
體 育	健康	<p>△ボール鬼</p> <p>△徒步競争</p>
	家庭技能	
曆及行事	指導の着眼	<p>道路愛護</p> <p>メーデー</p> <p>八十八夜</p> <p>憲法記念日</p> <p>護齒日</p> <p>こどもの日</p> <p>部落競技會</p> <p>立夏</p> <p>貯金日</p>
		<p>新憲法の發布のいわれを知らす</p> <p>齒を大切にす</p> <p>昔の風習にしたしませる</p>

學年		二 單元		お 百 姓 さ ん		配 當	
						自六、十月 第四、三週 至七、十一月 第五、二週	
						中心學習 一一八時間 基礎學習 七〇時間	
目 標		一、初夏及び秋の田圃を観察させ、自然の恩恵と農業生産者の不断の努力を感得し、理解させる 二、日常の食物に對して、生産の勞苦を偲び、感謝して頂く氣持を養う 三、花や生物を栽培飼育して動植物愛護の念を養う 四、學校園の植物に對し觀察力、注意力を養う					
生 活 習 俗		○私達はふだんどんなものを食べているかしらべる ・家庭の食事の献立をしらべる ・圖表にかいて何を多く食べているか話し合 いその理由を考える ・それらの食物は配給かどうかしらべる ○食物はどんな道すじを経て私達の手に届くか ・主食品と副食物、調味料の主なものにつ いて……生産地 ・どんな手順を経て家庭に届くか ・土地の産物についてしらべる ・食べもの、多くは農業生産品であること ○田や畑の様子を見學する					
中 心 學 習 動 作		△想畫 雨ふり 雨降りの状 況を充分に 表現する					
基 礎 學 習		△參 「雨ふり」 ・四拍子の律 動のけいこ					
工 情 音 樂 文 學 語 識 及 技 術 習 俗		△卷三 四「はやと り」 ・長文を讀解 し話の筋を 把える					
知 識 及 技 術 習 俗		○食事の言葉 いただきま す ごちそうさ ま △卷三 三頁 「ことばあ つめ」 言葉进行分类 し、動植物 の名前を知 る △擬人文を作 る ○配給量につ いて ・基準量 ・配給量の計 算 ○農家しらべ の圖表					
家 庭 技 術 習 俗		○單位につい て ・教二 一一頁 ・教三 一二頁 「長さの單 位」 ・教三 三一頁 ・教三 三二頁 「量の單位」 ・重さの單位 △お家の炊事 の手傳をす る ・薪わり ・調理 ・火をたく ・炭おこし △食事の作法 △食事衛生					
體 育 康 復		△梅雨と衛生					
曆 及 行 事		楽しい日 體重測定					
指 導 の 着 眼 點		道路愛護 七夕					

表現活動時間表		教科的 時間數		効果判定	
実施	豫定	実施	豫定	國語的	社會的
時	二〇時	時	三五時	〇分	三五時
分	〇分	分	〇分	〇分	〇分
時	七時	時	一四時	〇分	二二時
分	〇分	分	〇分	〇分	〇分
時	九時	時	一四時	〇分	一二時
分	〇分	分	〇分	〇分	〇分
時	一一時	時	一四時	〇分	二時
分	〇分	分	〇分	〇分	〇分
時	〇分	時	三時	〇分	三時
分	〇分	分	〇分	〇分	〇分

<ul style="list-style-type: none"> ○ 明瞭に發表する態度はどうか (觀察) ○ 協議に積極的に参加する態度はどうか (觀察) ○ 目的をもつて見學する態度はどうか (觀察) ○ 品物の配給ルートに關する理解はどうか (觀察とテスト) ○ 畫用紙や粘土を野菜や果物に表現する技巧はどうか (評定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買物の仕方についての理解と能力はどうか (觀察とテスト) ○ 物品を正しく使用する能力はどうか (觀察) ○ 聽唱法による歌曲の理解能力はどうか (觀察) ○ 筆算の加減計算を確實にする能力 (テスト) ○ 思想内容をより多く表現する能力はどうか (評定)
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<ul style="list-style-type: none"> ○ 商品はどうして作られるかをしらべる ・ 乾物、饅頭の加工法を考える ・ 繪巻物「品物はどうして送られるか」をかく ・ 食料品の保存法についてしらべる 八百屋 自分の家 ○ まごと遊びをする ・ 木の葉や草等でごちそうをする ・ 道具をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教三一七頁 「かぼちゃの花」 ・ 附點四分音符 ・ 八分休止符 ○ 教三四七頁 「かぼちゃの花」 ・ 詩情を味わう ・ 語調、音律に注意する
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<ul style="list-style-type: none"> △ 教三二九頁 「けいさんのおけいこ」 	<ul style="list-style-type: none"> △ 鐵棒遊び
-----------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------

<ul style="list-style-type: none"> 貯金日 梅雨の入り 	<ul style="list-style-type: none"> 時の記念日 梅雨の衛生に注意させる
----------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

教科的 時間數	實施		預定		國語的	社會的	算數的	理科的	音樂的	圖畫的	家庭的	體育的	生活指導	効果判定
	時	分	時	分										
二九時	〇分	〇分	三九時	〇分										○おもむきを繪や文に現わす ○おもむきをいたたく ○簡単な貯蔵法について ○お百姓さんに感謝會をする ○慰安會の計劃をたてる ○歌、おどり、劇をする ○綴方を讀む ○農家の人の話を聞く ○感謝文をかく ○色々な種蒔きをする ○蒔くもの話し合い ○蒔き方 ○蒔芽の様子を観察する ○観察日記をつける ○世話の仕方 ○秋の虫を飼う ○秋の虫をいらく／＼かつて世話をする ○秋の虫の音をきく ○どこで音を出すか體をしらべる ○「虫の聲」を歌う
〇分	〇分	四一時	〇分	二五時										
二四時	〇分	〇分	二四時	〇分										△卷三三九頁 「木の葉」 スタッカッ トの歌い方 を覚えさせ る
〇分	〇分	〇分	一八時	〇分										○教四 「うらしま 太郎」 ・長文をよみ とる力を養 う ・劇化する ○観察日記を 繼續して記 入するよう に指導
二二時	〇分	〇分	二二時	〇分										△教二 「六、七、八 九の九九の おけいこ」 △教二 七七八頁 「二位數の 加減」 繰上り繰下 り
〇分	〇分	〇分	二時	〇分										△うさぎ跳び 跳躍の指導
一五時	〇分	〇分	一七時	〇分										楽しい日 體重測定 道路愛護 文化の日 貯金日
〇分	〇分	〇分	九時	〇分										

- 畑に何もさしをする
- 一日に何時間位働くか
- 作業とリクリエーション
- 雨の降る日はどんな仕事をするか(副業)
- お百姓さんにかつている動物をしらべる
 - 家畜の種類についてしらべる
 - 使いみち、どんな役に立つか
 - 絵にかく
 - 家畜(兎、にわとり)の世話をする
- お百姓さんの道具しげべをする
 - 道具の種類とその使い方
 - 絵にかいてみる
- 秋の取入れの様子をみる
 - 秋の野山を箱庭にする
 - 「かがし」の歌を歌う
 - 稲の一株の本数をしらべる
 - 田にし取りや落穂拾いをする
 - 見聞したことを作文や絵にかく
 - 取入れのお手傳をする
- 取入れから供出までについてしらべる
 - 乾燥、白すり、俵につめる
 - 一俵の重さ及び容量について
 - 供出
 - お米の一生についてしらべ色々な表現にする
 - 季節によつて仕事はどんなに違うか
- いも掘をする
 - 計劃の話しをする
 - 道具の用意と使い方
 - いも掘をする
 - 感想の發表

○ 野茅
寫生

○ 動物の繪を
かく

○ 想畫

● 秋の田

● 秋らしい表
現法

○ 工作

● かがし
● すずめのこ
わがるよう
な動作、表
現を指導

○ 教二
「水車」
のうたい
方

○ 教二
「水車」
のうたい
方

○ 卷三三三頁
「かがし」
の指導

△ 卷四

二「にわと
り」

△ 卷三

七「白うさ
ぎ」

● 長文の讀解
力を養う

○ 參

「一粒の米」
一粒の米の
有難さを知
り粗末にせ
ず利用の途
を工夫する

を明確に現
す

● クラスの農
家しらべ
● 町の農家し
らべを部落
別にする

△ 對象形
● 花の切抜き
についての
對象形の觀
念を得させ
る

△ 教二
三頁―四頁
● 時間の觀念
と時計の見
方

○ 種まきから
秋の総りま
での日數の
計算をする
● 月の觀念
○ 稲の粒數に
ついて作題
する
● 教二 四三頁
● 教三 四四頁
「二位數の
計算」

△ 川遊び
水かけ
ばた足

△ ボール投げ

貯金日

楽しい日

保護者參觀
日

體重測定

終業式

秋祭

保護者參觀
日

一學期の反省と
休暇中の計劃

お祭の用意のお
手傳

學年		二	單元		ゆうびんやさん	配當	自九月	第一週	中心學習	七八時間
						至十月	第二週	基礎學習	四八時間	
目標		一、通信機關が如何に人の生活に大切であるかということを通して理解させる 二、郵便局を見學して實社會の動きを悟らせ局員の勞苦に感謝させる 三、郵便ごつこを構成してその間の作製技術を習得させると共に社會的態度を養ふ								
中心學		兒童の活動 ○手紙や葉書を出したりもらつたりしたこと の經驗を發表させる ・誰に出したか ・どんな用事でどこにいる人に出したか ・どんなことに氣をつけて出したか ・どんなにして出したか ・自分の家に手紙が來たことについて								
生活		郵便局を見學する ・局の人に話をきく ・どんな仕事をしているか ・どんなきかいを使つてどんな風に働いて いるか ・どんな人たちがどれ位來ているか ・郵便料金について ・郵便物の集配の様 ・ポストについてしらべる ・「ゆうびんやさん」をスケッチする ○郵便ごつこの用意をする								
基礎學		圖工—音—樂—文—學 △教 三〇頁 「そらだん」 の歌い方 を理解させ る								
習		言語—知識—及—技—能—習 家庭技能 △球送り 球入れ								
指導の着眼		曆及行事 道路愛護 始業式 二十日 休暇中の作 品展 貯金日 よい作品の鑑賞 の仕方								

- 必要な材料を整える
- 役割をきめる
- 手紙を書く用意をする
- 教室の一隅に郵便局を造る
- 區分欄、郵便箱、窓口の作製
- 切手、葉書、封筒、スタンプをつくる
- 郵便ごつこをする
 - 通信のいろいろな種類について讀んだり話合ったりする
 - 役割に従つて局を構成する
 - 郵便ごつこをする
 - 手紙や葉書の書き方のおけいこをする
 - 切手のはり方
 - 病気で欠席している友だちに見舞状を書く
 - 轉校したお友だちにもかく
 - 學級、児童、親類、先生にもかく
 - 手紙にもいろいろあること
- (普通郵便、速達郵便、書留郵便)
- 手紙の旅をしらべる
 - 手紙の順路と人々の苦心を研究する
 - どんな人によつて手紙が送られるかを調べる
 - 輸送の経路について物語や繪に表現する
- いろいろな切手について
 - なぜ郵便物に切手を貼るかについて話合
 - 古い切手の蒐集
 - 切手の使い方
 - 切手にはどんな種類があるか
 - 切手にはどんな繪が書いてあるか
 - 郵便料金を表に書く
- 小包の包装の仕方のおけいこをする
- 小包とは何か

△想畫
お月見
夜景の畫き
方

○參
「汽車ボツ
ボ」
發想の練習
をする

△參
「月見」の文
を鑑賞する

○教四
「一枚の紙」
を讀み一枚
の紙のいろ
／＼に使用
されること
について話
合

○教二
四頁―五頁
長四角
三角の理
解と正しく
畫く練習

○教二四七頁
直角の理解
と正しい畫
き方

○教四
「いろいろ
なあいて」
を讀む
相手によつ
てことばの
つかい方の
あることを
理解させ、
敬語のつか
い方になれ
させる

○教二五二頁
「乘法」
二の段、五
の段の九々を
練習する

○教三 六二頁
六七頁
「三、四の段
の九々」を
練習する

△運動後の衛
生について
手足を洗う
汗をふく
うがいをす
る

體重測定

楽しい日

秋分の日

日出、日入の方
向を見させる

保護者參觀
日

彼岸の入り

月見

<p>○私達を守ってくれる人について話合 ・おまわりさんに世話になつたこと ・お世話になつている人を見たこと ・お家におまわりさんがこられたこと ・学校にこられて話をきいたこと ・町の十字路でおまわりさんはどんな仕事を してられるか ・なぜそんな所に立つていられるのか</p>		<p>○交通安全の生活を知ることから警察署の任務を社会的に理解させる 二、交通安全の生活を實踐してその能力や生活態度を養う 三、学校の規則や學級の約束には必ず従う態度を養う 四、學習全體を通じて社會生活を圓滑に遂行する爲には規則があり道徳があること及び人々の生活はこれを守ることによつて幸福な生活が可能であることを體驗させる</p>	<p>學年</p>
<p>○交通安全の状況を見學する ・驛前を南に行つた十字路 ・大川町の十字路に交通安全を見學する ・どんな人がどんなに通つてゐるか ・のりものにどんなものが通るか ・交通巡查にお話をきく ・おまわりさんの繪をかく ○十字路ごっこをする</p>			<p>二 單元</p>
<p>児童の活動</p>	<p>生活</p>	<p>習</p>	<p>配當</p>
<p>圖工情</p>	<p>音 樂</p>	<p>文 學</p>	<p>自十一月 至十二月</p>
<p>△教二 「風の日」 四分の四拍 子を正しく うたうけい こ</p>	<p>知 識</p>	<p>數 量 形</p>	<p>第 三 週 第 四 週</p>
<p>○教四 「この町」 警察署のと ころをよく よむ 警察の仕事 を理解する</p>	<p>家 庭 技 能</p>	<p>體 育</p>	<p>中心學習 七九時間 基礎學習 四七時目</p>
<p>△跳箱 マット轉回</p>	<p>勤勞感謝の 日</p>	<p>曆及行事</p>	
<p>道路愛護</p>	<p>勤勞を尊ぶ念を やしなう</p>	<p>指導の着眼</p>	

○十字路をつくる

表現活動時間表		教科的数		効果判定	
実施	豫定	実施	豫定	実施	豫定
時	二〇時	時	二八時	時	二八時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	八時	時	三五時	時	三五時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	一〇時	時	二五時	時	二五時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二〇時	時	一四時	時	一四時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二〇時	時	一四時	時	一四時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二時	時	一七時	時	一七時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二時	時	〇時	時	〇時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二時	時	一四時	時	一四時
分	〇分	分	〇分	分	〇分
時	二時	時	二時	時	二時
分	〇分	分	〇分	分	〇分

●薬のみ方について
 ○お医者さんごつこをする
 ●必要な準備をする
 ●部屋のかざりつけをする
 ●劇化の工夫をする

○體を丈夫にする
 ●お休み調べをして表につくる
 ●偏食矯正表をつくり実行する
 ●寒さに負けない強ハ子供になる
 ●毎日実行する運動をきめる

●食事衛生
 ●身體的衛生
 ●住居衛生
 ●被服衛生

○町の衛生についても考える
 ●公衆便所について
 ●町の塵焼場
 ●下水溝について
 ●公衆衛生について

○自己の所信を具體的に表明する方法を工夫する態度はどうか(観察)
 ○病氣見舞の手紙を書く能力はどうか(評定)
 ○衛生に關する知識とその實踐態度はどうか(テスト)
 ○どんなお医者さんがあるか理解しているかどうか(テスト)
 ○簡単な病氣の豫防法と手當を知っているかどうか(テスト)
 ○一つの仕事を繼續しているかどうか(観察と評定)

○劇表現の技術はどうか(評定)

○想像
 強いからだ
 ●強健な體をつくる積極
 消極兩方面の繪をかく

○衛生ボスタ
 ●一目瞭然たること色の鮮明なること
 ●衛生思想の普及に役立つこと

△教二
 「春を待つ」
 呼吸つき方

△參
 「私の齒」

○參
 「人形の病氣」

○天秤の使い方
 方をまねる

△中の中のこぼんさん

●保護者參觀
 日
 楽しい日
 體重測定

- ・ 十字路見学の話しをする
 - ・ テープで十字路を作る
 - ・ 積木や箱でのりものを作る
 - ・ おまわりさんの信號の動作を實際にやつて見る
 - ・ 各分団で役割をきめる
 - ・ 役割の主なもの
 - おまわりさん
 - 通行人
 - 車掌さん
 - ・ 人と物のあり場所について考える
 - ・ 信號の動作により十字路の通行をする
 - ・ 見学児童もおき交互に行う
 - ・ 道を歩く時の話し合い
 - ・ 協同作業をする態度についてわがまをしない
 - ・ 進んで友達の世話をする
 - ・ みんな仲よく楽しくする
- 交通に関する各種の表現をする
- ・ 交通安全の作文をかく
 - ・ 標語を考える
 - ・ 道を上手に歩いている子供の繪をかく
 - ・ 交通安全に関する紙芝居や歌を作る
- 交番所を見学する
- ・ おまわりさんからお話をきく
 - ・ 交通のこと
 - ・ 防犯のこと
 - ・ 防火のこと
 - ・ お話をきいてきたことについて整理する
 - ・ お禮のお手紙をかく
- 防火について話し合う
- ・ 經驗の發表をする

- 想畫
- 學校へ来る道
- ・ 歩いている人
- ・ のりもの等の特徴をとらえてかく

- △ 参
- 「汽車」
 - 「電車」
 - ・ 附點音符のうたいかた
 - リズム遊戯

- 教四
- 「この町」
 - 驛のところをよくよむ

- 教
- 一頁―三頁
 - 「長さの單位」
 - ・ メートル
 - センチメートルの關係を理解する
 - ・ メートル、センチメートルの計算を練習する
- △ 教七六頁
- 「加減の練習」
- 教 四七頁
- ・ 直角を理解する
 - ・ 鋭角、鈍角をみわける

體重測定

加古川町せいもん拂

クリスマス

買物の仕方
金銭の出納について指導する

クリスマス行事を通じて豊かな情操をやしなう

<p>○いろいろな病氣について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や家の人がかゝつた病氣についてしらべる ・子供のかゝり易い病氣をしらべる 	<p>△寫生 冬景色 ・郊外寫生を 行い冬らし い風景を表 現する</p>	<p>△教二 「さんぽ」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○病氣の豫防と治す工夫をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬にかゝり易い病氣をしらべる ・かぜひきの原因とその豫防方法を考える ・健康法を工夫し實行する ・乾布まきつ、マスクの仕方、ウガイ、齒磨の練習 	<p>△想畫 豆まき ・病魔を追出す繪</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○學校の整務室についてしらべる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・學校で病氣やけがをした時はどうするか ・整務室についてしらべる ・場所及設備について ・學校看護婦からお話をきく 	<p>△想畫 豆まき ・病魔を追出す繪</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○そのほかの學校の衛生、施設について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マクリ服用 ・ミルクの給食 ・検便について ・便所、たんつぼについて 	<p>△想畫 豆まき ・病魔を追出す繪</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○病院へ行ってお医者さんのお仕事を見學する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人が來ているか ・どんな部屋があるか、部屋の様子 ・お医者さんの仕事の様子 ・看護婦さんの仕事の様子 ・お医者さんのお仕事の種類についてしらべる ・繪にかく 	<p>△想畫 お医者さん 看護婦さん 特徴をとらえて畫く いこ</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○藥局をたずねて藥をしらべる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藥屋さんしらべをする ・見學する藥屋さんを決定する ・調査質問事項の決定整理をする ・藥局を見學して話をきく ・この頃多い病氣をよく賣れる藥について 	<p>△こまづくり</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○藥局をたずねて藥をしらべる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藥屋さんしらべをする ・見學する藥屋さんを決定する ・調査質問事項の決定整理をする ・藥局を見學して話をきく ・この頃多い病氣をよく賣れる藥について 	<p>△こまづくり</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>
<p>○藥局をたずねて藥をしらべる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藥屋さんしらべをする ・見學する藥屋さんを決定する ・調査質問事項の決定整理をする ・藥局を見學して話をきく ・この頃多い病氣をよく賣れる藥について 	<p>△こまづくり</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○参 「いろく な傳染病」</p>	<p>○お見録の挨拶の言葉 ・敬語や丁寧な言葉の練習 例・○○さん のご病氣は如何ですか ・ごしんばい ですね ・おだいじに なさいませ</p>	<p>○體溫計の計り方 ・溫度の單位は「度」であること</p>	<p>△かけあし</p>	<p>左義長 保護者參觀日 大寒 楽しい日 體重測定 道路愛護 節分(立春)</p>	<p>寒中の衛生に注意する</p>

△教二九三頁
「けいさん
のけいこ」
△藥の服用か
ら等分除包
合除のけい
こ
九々の練習

貯金日

學年 二 單元 おいしやさん

配當

自一月 第一週 中心學習 九二時間
至二月 第四週 基礎學習 五五時間

目標

- 一、おいしやさんごつこをして、お醫者さんがどんなに私たちの健康のために盡して下さっているかを知って病氣とたたかい私たちが病氣から守って下さるお醫者さんに對する感謝の念を啓培する
- 二、縣立加古川病院を見學して病氣を治すための病院がどんな仕組みになっているかの中で、どんな人がどんな風に働いているかを理解する
- 三、體を丈夫にすることがどんなに大切か公衆衛生の知識が何故必要か、豫防注射をなぜ進んで受けなければならないか等のことを知らせる
- 四、日常よくかかる病氣の原因や手當について簡単な知識をもつようにする

生

活

學

習

中心學習
兒童の活動

圖工情

音樂

文操學

言語

數及技

家庭技能

體健育

曆及行事

指導の着眼

○病氣になつた時の經驗の發表をする
 ●病氣の名前
 ●病氣の様子と經過
 ●お醫者さんの手當
 ●病氣になつた原因
 ●病氣の苦痛とお家の人たちの心配、世話のありがたさ
 ●お友だちのお見舞のうれしさ
 ●全快の喜びを語る
 ○お友だちの病氣見舞をする
 ●計劃をたてる
 ●誰にどんなにして
 ●用意をする
 ●お見舞をする
 ●お見舞の手紙や病氣を慰める繪をかく
 ●作品のアルバムを作る
 ●お見舞に行く代表をきめる
 ●お見舞をする
 ●代表から病氣の様子をきく

○紙芝居
 ●病氣のおき
 ●病氣の原因
 ●病氣の理由を表現する

△教二
 「シーソー」
 二拍子のおけいこ

△教四
 「がんななかま」
 長文の讀解
 になれさせ
 共同生活の
 理解

△教四
 「いろはかるた」
 ●思想を簡単な言葉に現わす

○病氣缺席日
 數しらべ
 △教二七六頁
 「けいさん
 のけいこ」

△繩とび
 △羽根つき
 △まりつき
 △たこあげ

始業式
 書初展覽會
 貯金日
 成人の日

よい作品の鑑賞の仕方
 祭日の意味理解

- 町民の選挙できめる（民主主義）
 - 町長さんは我々の代表である
 - 新憲法
 - 選挙する時の心得と注意
- これまでの町長さんについてしらべる
- 前の町長さんにはどんな人々があつたか
 - いつ頃の町長さんか
 - 町長さんの年代表を作つてみる
 - 主なお仕事
- 町長さんとお話をする
- 禮儀正しく聞く態度、質問の仕方等（質問事項の整理決定）
 - 昔と今の加古川町、これからの加古川町についてきく
 - 明るい楽しい加古川町にするにはどうしたらよいか
- 町助役さんと町會議員さん
- どうしてきめるか
 - どんなことをする人か
 - （相談相手になる人、助ける人）
- 仲よし相談會の係をきめる
- 選挙の仕方、心得、注意することを相談する
 - 係に選ばれた者の責任について話合う
 - 自治活動の在り方について相談する
- 新役員による仲よし相談會を開く
- 一年間をふりかえつてみる
 - 發表の態度
 - 言葉は明瞭に語尾まで
 - 發表の仕方にづいて
 - 友達の意見は静かによくきく

○ 略地圖
加古川町の略圖をかく

△ 参
「羽衣」
三拍子のけいこ

○ 教 四
「がんのなかま」
長文を讀んで理解する能力を養う

○ 参
「まさそのたび」をよむ

△ 前回との體重の比較をする

△ 教 八六頁
「二位數の加減」
繰上り繰下る練習
○ 投票結果の數をしらべる

△ 手つなぎ鬼

保護者參觀日
春分の日
晝夜の長さ
體重測定

△ なわとび

△ 鬼ごっこ
△ 場所取鬼

學年 三 單元 加古川 駅

配當 自四月第一週 至五月第二週 中心學習 七二時間 基礎學習 三六時間

目標
 一、實地見學によつて加古川駅の機能を理解する
 二、加古川駅を中心とする交通網を調査することによつて加古川駅の活動状態を理解する
 三、交通機關の重要性と従業員の責任の重大性を理解させ、これらの人々に對する感謝の念を養う
 四、乗降客の状態を観察することによつて交通道德の實踐力を高める
 五、荷物の置場積込み積換えの状況を見學させ荷造りの方法發送手順等について理解させる
 六、機關車にある列車機關車を見學させて三年生らしい機械に對する喜びを深め、こゝに従事する人達の勞苦に感謝させる

<p>○加古川駅を見學調査する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合ひにより見學の目的及び調査方法を決定する ・調査事項を決定する ・組織についてお話を聞く ・ラッシュユアワーとダイヤの編成 ・一日の乗降客數と行先 ・通勤者數と一般乗客數とを比べる ・通勤者の通勤範圍の統計 ・加古川駅をスケッチする <p>○加古川駅を中心としての交通網を調査する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話合ひによつて兒童の行動範圍の調査をする 	<p>△無彩色十一段階について知る</p> <p>△無彩色と有彩色との明度の比較當合</p> <p>△二色、三色配合の工夫</p>	<p>△教三 「春の小川」を歌う</p> <p>・簡単な旋律の作曲をはじめる</p>	<p>○教 たるう 二頁 「町へ」を讀む</p>	<p>△作文 「三年生になつて」をつづる</p> <p>・長文をかく</p> <p>△「きせつだより」をつくる</p>	<p>○教三 四九頁 「温度を調べよ」</p> <p>・グラフのかけ方</p> <p>○教三 一九頁 「せいとの家」</p> <p>・物指、コンパスの使い方、方位等</p>	<p>△徒手體操</p> <p>△かけっこ</p> <p>置換競争</p>	<p>曆及行事</p> <p>始業式 入學式 役員任命 花まつり 貯金日</p>	<p>指導の着眼</p> <p>指導者の責任と その下で協力することに注意する</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------	--------------------------	-------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------------------------------	-------------------------------------------------

- ・加古川驛を起點としての交通機關について調べる
 - ・交通網をつくる
 - ・色々の乗物を調べる
 - ・加古川駅の今と昔の比較をする
- 輸送について調べる
- ・乗客輸送
 - ・主要駅までの運賃一覽表をつくる
 - ・貨物輸送
 - ・發着の荷物の種類と個數
 - ・荷物置場、積込み、積換え
 - ・荷造りの方法、發送手順
 - ・貨車の大きさと積込み數
- 加古川駅の模型をつくる
- ・加古川駅の見取圖をかく
 - ・加古川駅の展開圖を作る
 - ・模型を構成する
 - ・模型作製についての反省をする
- 機關區の見學調査をする
- ・機關區の人にお話を聞く
 - ・乗務員についてしらべる
 - ・動力の研究(電氣、石炭)をする
 - ・機關車の寫生をする

○色々の乗物の寫生の研究

△靜物寫生
色と形の見方

○機關車のスケッチの研究
線画の研究

○参
「汽車」聽唱
リズム感の心身的把握

△教三
「仲よし、こよし」を視唱する
讀譜力を養う

○教三 上八頁
「私の旅」をしらべる

○對話文の讀み方について練習
○手紙のかき方

△既習文字の練習

○教三 七九頁
「遠足」
長さの單位をしらべる

△教三 三五頁
「珠算(一)」
珠の置き方
讀み方等珠算の基礎

○ダンス
汽車

△鬼遊び
子ふやし鬼

道路愛護 メーデー	天皇の誕生 日	たのしい日	身體検査	遠足	保護者參觀 日
身體検査後の指導					

表現活動時間表		教科的数		効果判定	
実施	豫定	実施	豫定	実施	豫定
時	七時	時	二〇時	〇分	〇分
分	分	分	分	分	分
時	一六時	時	八時	〇分	〇分
分	分	分	分	分	分
時	五時	時	一二時	〇分	〇分
分	分	分	分	分	分
時	〇時	時	〇時	〇分	〇分
分	分	分	分	分	分
時	〇時	時	一二時	〇分	〇分
分	分	分	分	分	分
時	〇時	時	四時	〇分	〇分
分	分	分	分	分	分

<ul style="list-style-type: none"> ・機関車の模型を作る ○驛員の勤務について調べる ・働く人の責任についてお話を聞く ・事故の原因と處理 ・感謝文をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通道徳について調べそれを身につける ・乗降の時の注意 ・待合室の態度 ・歩行の時の注意 ・遊び場所及び遊び方 ・ポスター標語をつくる
<ul style="list-style-type: none"> ○見學の態度は自主的か(評定) ○見學の調査内容の理解程度はどうか(テスト) ○統計表の作成能力はどうか(評定) ○交通圖の作成力はどうか(評定) ○計劃のたて方はどうか(評定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○感想發表態度はどうか(評定) ○繪畫表現能力はどうか(評定) ○模型作製力はどうか(評定) ○兒童各自の交通道徳に對する實踐力は養われたか(評定)

學年		三	單元	市	場	配當	自五月至六月	第三週	第四週	中心學習	八六時間
目標		<p>一、町巡りをする事によつて、市場の位置を知らせる</p> <p>二、市場を調査することによつて市場の存在理由を理解させる</p> <p>三、各種の調査結果によつて各方面の理解と能力を養い各種の表現力を啓培する</p> <p>四、見學調査をする場合の態度と能力を養う</p> <p>五、商品の良否、價格の高低、陳列の方法等經濟的方面の關心をかためる</p>									
兒童の活動	中心學	<p>○市場について話し合をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加古川町にはどんな市場があるか ・廉賣市場 ・驛前マーケット ・青物市場 ・魚市場 <p>・市場に買物に行つた経験の發表をする</p> <p>・どんな買物に行つたか</p> <p>・店の様子</p> <p>・賣る人、買う人について</p> <p>○市場(廉賣、驛前マーケット)の見學調査をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見學の計劃をたてる ・調査項目を決める 									
圖工	情										
音	樂	<p>△教三 「雲と風」を歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・b 記號の名前 ・三拍子の歌 <p>○教 たらう</p> <p>町「四」をよむ</p>									
文	學	<p>△既習語句練習をする</p> <p>○他人との應對の言葉を練習する</p>									
算	數	<p>△教三 九頁 「三位數の加減」の練習</p>									
家	庭	<p>△徒手體操</p> <p>△鐵棒遊び</p>									
體	育	<p>部落協議會</p> <p>保護者參觀日</p>									
曆	及	<p>指導の着眼</p> <p>決議事項の實踐に留意する</p>									